

総合医学：634-4-DP1・DP3・DP4・DP5

年次	学期	学則科目責任者
4年次	通年	*牧山 康秀 (脳神経・頭頸部外科学)

学修目標 (GIO) と単位数	単位数：12単位 歯科診療において全人的医療を遂行する上で必要な医学的知識を理解する。
評価方法 (EV)	平常試験によって評価点 (100%) とする。 総合医学に含まれる各科目は追試験は行うが、原則として再試験は行わない。 成績評価は含まれる各科目の授業時間に応じた重み付けを行い、総合医学全体として評価点を出す。 60点以上を合格とする。

外科系

年次	学期	学修ユニット責任者
4年次	後学期	*牧山 康秀 (脳神経・頭頸部外科学)

学修ユニット学修目標 (GIO)	単位数：2単位 学修目標 (GIO)：歯科診療を行う上で必要となる外科学の知識を習得する。
担当教員	※宋 圭男、※谷 眞弓、※畠中 康晴、※前田 剛、※藤田 英樹、※松浦 大輔、*野本 たかと、*丹羽 秀夫、*遠藤 眞美、*牧山 康秀
教科書	標準外科学 加藤ら 医学書院 標準皮膚科学 富田ら 医学書院 よくわかる摂食・嚥下のしくみ 山田好秋 医歯薬出版
評価方法 (EV)	学期末に行う平常試験 (100%) によって評価点とする。

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2022/09/14 (水) 1時限 09:00~10:30	外科系 1 外科学概論 近代外科学の発展 基本的な外科手技	<p>【授業の一般目標】 広義の外科学の一分野としての歯科を理解する。 近代外科学の進歩を理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する 2. 外科学が発展してきた要因を説明できる。 3. 外科手術に用いる器械・器具を理解し、切開縫合・止血法の基本を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：歯科学の歴史 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布資料のレビュー 事後学修時間：15分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302 教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 13 一般教養的事項 ア 医学史、歯科医学史</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-5) 小手術 ③小手術に必要な器具の用法と基本手技を説明できる。</p>	谷 眞弓
2022/09/21 (水) 1時限 09:00~10:30	外科系 2 ショック 救急蘇生法	<p>【授業の一般目標】 ショックを説明できる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する 2. ショックの定義と症状、分類を説明できる。 3. ショックに対し救急蘇生法ができる。</p>	前田 剛

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2022/09/21 (水) 1時限 09:00～10:30	外科系2 ショック 救急蘇生法	<p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：血圧、循環、呼吸について。 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布資料のレビュー 事後学修時間：20分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 11 初期救急 ア 救急患者の診察 a 救急処置を要する症状および病態（心停止、失神、ショック、けいれん、頭痛、運動麻痺、呼吸困難、胸痛、アレルギー症状、誤飲、誤嚥）</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 必修の基本的事項 11 初期救急 ア 救急患者の診察 d 病態の評価と疾患（全身的偶発症を含む）の鑑別 イ 救急処置 a 一次救命処置<BLS> 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 4 主として全身に関連する疾患の病態・診断・治療 ソ 歯科における全身的偶発症とその対応 a 血管迷走神経反射 d アナフィラキシーショック g 誤飲、誤嚥</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-5 病因と病態 C-5-4) 循環障害 ⑥ショックの成因と種類を説明できる。 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-6) 救急処置 ①歯科治療時の全身的偶発症を説明できる。 ②一次救命処置(basic life support <BLS>)を説明できる。</p>	前田 剛
2022/09/28 (水) 1時限 09:00～10:30	外科系3 免疫	<p>【授業の一般目標】 免疫に関する臓器・細胞について説明できる。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1.臨床経験に基づき以下の内容を教授する 2.免疫に関する臓器・細胞について説明できる</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：免疫について 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布資料のレビュー 事後学修時間：20分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 5 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 f 免疫（免疫担当細胞、自然免疫、体液性免疫、細胞性免疫、粘膜免疫）</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢 3 免疫 ア 免疫系担当臓器・細胞 イ 抗原処理と抗原提示</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-4 感染と免疫 C-4-2) 免疫 ①自然免疫の種類と機能を説明できる。 ②獲得免疫の種類と機構を説明できる。 ③免疫系担当臓器・細胞の種類と機能を説明できる。 ④抗原提示機能と免疫寛容を説明できる。 ⑤アレルギー性疾患の種類、発症機序及び病態を説明できる。 ⑦粘膜免疫を説明できる。</p>	畠中 康晴
2022/10/05 (水) 1時限	外科系4 皮膚疾患	<p>【授業の一般目標】 皮膚の解剖を説明できる。</p>	藤田 英樹

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
09:00～10:30	総論・各論 1	<p>発疹学を説明できる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 臨床経験に基づき以下の内容を教授する 代表的な発疹疾患を説明できる <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <p>事前学修項目：皮膚の解剖 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布資料のレビュー 事後学修時間：20分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>無</p> <p>【学修方略 (LS)】</p> <p>講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】</p> <p>302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】</p> <p>必修の基本的事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 人体の正常構造・機能 <p>ア 全身・口腔の構造と機能</p> <p>d 組織 (上皮組織、結合 (支持) 組織 (血液を含む)、筋組織、神経組織)</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】</p> <p>歯科医学総論 総論Ⅳ 主要症候</p> <ol style="list-style-type: none"> 全身の症候 <p>イ 皮膚・粘膜系</p> <p>【コアカリキュラム】</p> <p>C 生命科学</p> <p>C-3 人体の構造と機能</p> <p>C-3-4 身体を構成する組織と器官</p> <p>C-3-4)-(1) 上皮組織と皮膚・粘膜系</p> <ol style="list-style-type: none"> 上皮組織の形態、機能及び分布を説明できる。 皮膚と粘膜の基本的な構造と機能を説明できる。 腺の構造と分布及び分泌機構を説明できる。 	藤田 英樹
2022/10/12 (水) 1時限 09:00～10:30	外科系 5 消毒法・滅菌法・ 清潔操作・損傷・ 炎症	<p>【授業の一般目標】</p> <p>無菌法・滅菌法を通じ、手術における感染防止の重要性を理解する。 損傷・炎症の分類、病態・治療法について基本的概念を理解する。 創傷治癒のメカニズムを理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 臨床経験に基づき以下の内容を教授する 各種消毒法を説明できる 滅菌法を説明できる 損傷、炎症を説明できる 創傷治癒を説明できる <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <p>事前学修項目：外科総論の該当部分を通読。 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布資料のレビュー 事後学修時間：20分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>無</p> <p>【学修方略 (LS)】</p> <p>講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】</p> <p>302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】</p> <p>必修の基本的事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 治療の基礎・基本手技 <p>エ 消毒・滅菌と感染対策</p> <p>a 消毒・滅菌法</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】</p> <p>必修の基本的事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 主要な疾患と障害の病因・病態 <p>ア 疾病の概念</p> <p>c 損傷</p> <p>d 炎症</p> <p>歯科医学総論 総論Ⅶ 治療</p> <ol style="list-style-type: none"> 手術・周術期の 管理、麻酔 <p>ア 手術</p> <p>b 消毒と滅菌</p> <p>h 創傷の治療</p> <p>【コアカリキュラム】</p> <p>C 生命科学</p> <p>C-5 病因と病態</p> <p>C-5-3) 修復と再生</p> <ol style="list-style-type: none"> 創傷治癒の過程と関与する細胞を説明できる。 <p>C-5-5) 炎症</p> <ol style="list-style-type: none"> 炎症の定義と機序を説明できる。 <p>E 臨床歯学</p>	* 牧山 康秀

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2022/10/12 (水) 1時限 09:00～10:30	外科系5 消毒法・滅菌法・ 清潔操作・損傷・ 炎症	E-1 診療の基本 E-1-5) 小手術 ⑥手指と術野の消毒法を説明できる。 ⑧器具の消毒・滅菌法を説明できる。	* 牧山 康秀
2022/10/19 (水) 1時限 09:00～10:30	外科系6 腫瘍, 抗腫瘍剤	<p>【授業の一般目標】 腫瘍について基本的概念を理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する 2. 良性・悪性の鑑別点を説明できる 3. 抗腫瘍剤の作用機序・使用法・副作用を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：腫瘍の定義 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布資料のレビュー 事後学修時間：20分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 7 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 g 腫瘍</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態 1 病因、病態 ク 腫瘍 a 概念 c 病因 d 分類と病態 f 前癌状態、前癌病変 総論Ⅶ 治療 8 薬物療法 ウ 疾患に応じた薬物 治療 d 抗腫瘍薬</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-5 病因と病態 C-5-6) 腫瘍 ①腫瘍の定義を説明できる。 ②腫瘍の病因を説明できる。 ③上皮異形成を説明できる。 ④腫瘍の異型性と組織学的分化度を説明できる。 ⑤良性腫瘍と悪性腫瘍の異同を説明できる。 ⑥腫瘍の増殖、浸潤、再発及び転移を説明できる。 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (6) 腫瘍及び腫瘍類似疾患 ⑥前癌状態の種類と特徴を列挙できる。</p>	* 丹羽 秀夫
2022/10/26 (水) 1時限 09:00～10:30	外科系7 気管・食道科学 総論	<p>【授業の一般目標】 気管食道の病態、嚥下とその病態について理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する 2. 誤飲、誤嚥を説明できる。 3. 気管・食道の異物について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：気管・食道の解剖 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布資料のレビュー 事後学修時間：20分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 5 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系 (骨格系 (関節を含む)、筋系、呼吸器系、循環器系 (脈管系)、 消化器系 (歯および唾液腺を含む)、造血器系、泌尿器系・生殖器系、神経系、 内分泌系、感覚器系)</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】</p>	宋 圭男

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2022/10/26 (水) 1時限 09:00～10:30	外科系7 気管・食道科学 総論	歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢 1 細胞・組織・器官の構造と機能 エ 消化器系 a 消化管 総論Ⅳ 主要症候 1 全身の症候 エ 消化器系 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 4 主として全身に関連する疾患の病態・診断・治療 ソ 歯科における全身的偶発症とその対応 g 誤飲、誤嚥 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4 身体を構成する組織と器官 C-3-4)-(7) 消化器系 ①消化管の基本構造、消化機能及び調節機構を説明できる。	宋 圭男
2022/11/02 (水) 1時限 09:00～10:30	外科系8 甲状腺・リンパ腺・ 乳腺	【授業の一般目標】 歯科学領域で遭遇頻度の高い頭頸部疾患を理解する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する 2. 代表的な甲状腺疾患を説明できる。 3. 代表的な乳腺疾患を説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：甲状腺、乳腺の解剖 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布資料のレビュー 事後学修時間：20分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 302教室 【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢 1 細胞・組織・器官の構造と機能 ク 内分泌系 a 内分泌器官 【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態 1 病因、病態 ク 腫瘍 b 疫学 c 病因 d 分類と病態 e 組織学的構造 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4 身体を構成する組織と器官 C-3-4)-(9) 内分泌系とホメオスタシス ①内分泌器官・組織の構造と機能及びホルモンの種類、作用と異常を説明できる。 C-5 病因と病態 C-5-6) 腫瘍 ②腫瘍の病因を説明できる。 ⑤良性腫瘍と悪性腫瘍の異同を説明できる。 ⑥腫瘍の増殖、浸潤、再発及び転移を説明できる。	谷 眞弓
2022/11/09 (水) 1時限 09:00～10:30	外科系9 急性腹症	【授業の一般目標】 急性腹症とは何かを説明できる。 【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する 2. 代表的な急性腹症を説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：腹腔の解剖 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布資料のレビュー 事後学修時間：20分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無 【学修方略 (LS)】 講義	畠中 康晴

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2022/11/09 (水) 1時限 09:00～10:30	外科系9 急性腹症	<p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 11 初期救急 ア 救急患者の診察 d 病態の評価と疾患（全身的偶発症を含む）の鑑別</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅳ 主要症候 1 全身の症候 エ 消化器系</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-6 医師と連携するために必要な医学的知識 ①全身の症候・病態を説明できる。</p>	畠中 康晴
2022/11/16 (水) 1時限 09:00～10:30	外科系10 食道疾患	<p>【授業の一般目標】 食道の臨床解剖と疾患を理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1.臨床経験に基づき以下の内容を教授する 2.代表的な食道疾患を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：食道の解剖 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布資料のレビュー 事後学修時間：20分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅳ 主要症候 1 全身の症候 エ 消化器系</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢 1 細胞・組織・器官の構造と機能 エ 消化器系 a 消化管</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (7) 消化器系 ①消化管の基本構造、消化機能及び調節機構を説明できる。 E 臨床歯学 E-6 医師と連携するために必要な医学的知識 ①全身の症候・病態を説明できる。</p>	宋 圭男
2022/11/30 (水) 1時限 09:00～10:30	外科系11 消化管・肝・胆・膵	<p>【授業の一般目標】 消化性潰瘍の概念を理解する。 消化性潰瘍の診断と治療法を説明できる。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1.臨床経験に基づき以下の内容を教授する 2.胃癌の疫学と概念を理解し診断・治療法を説明できる。 3.大腸癌の疫学と概念を理解し診断・治療法を説明できる。 4.大腸の炎症性疾患を説明できる。 5.代表的な肝臓・胆嚢・膵臓疾患を理解し、診断・治療法を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：消化管の解剖 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布資料のレビュー 事後学修時間：20分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】</p>	宋 圭男

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2022/11/30 (水) 1時限 09:00～10:30	外科系 1 1 消化管・肝・胆・ 膵	<p>歯科医学総論 総論Ⅳ 主要症候 1 全身の症候 エ 消化器系</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (7) 消化器系 ①消化管の基本構造、消化機能及び調節機構を説明できる。 E 臨床歯学 E-6 医師と連携するために必要な医学的知識 ①全身の症候・病態を説明できる。</p>	宋 圭男
2022/12/07 (水) 1時限 09:00～10:30	外科系 1 2 皮膚疾患 各論 2	<p>【授業の一般目標】 口腔に見られる皮膚粘膜疾患が説明できる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する 2. 天疱瘡を説明できる 3. 単純ヘルペスを説明できる。 4. 口腔カンジダ症を説明できる。 5. 扁平苔癬を説明できる。 6. 口腔アレルギー症候群を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：口腔粘膜の解剖 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布資料のレビュー 事後学修時間：20分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅳ 主要症候 1 全身の症候 イ 皮膚・粘膜系</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅳ 主要症候 2 口腔・顎顔面の症候 エ 口腔粘膜 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 ク 口腔粘膜疾患の病態・診断・治療 a ウイルス性口内炎 b 天疱瘡、類天疱瘡 f 慢性再発性アフタ i 口腔扁平苔癬 j 口腔カンジダ症<鵝口瘡></p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (4) 口腔粘膜疾患 ①口腔粘膜疾患の種類と特徴を説明できる。</p>	松浦 大輔
2022/12/14 (水) 1時限 09:00～10:30	外科系 1 3 摂食嚥下リハビリ テーション1	<p>【授業の一般目標】 摂食・嚥下機能を理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する 2. 1. 摂食・嚥下機能の発達を説明できる。 3. 2. 嚥下の機序について説明できる。 4. 3. 嚥下動作にかかわる解剖・生理を説明できる。 5. 4. 摂食・嚥下機能障害を合併する疾患を述べられる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：頭頸部の解剖 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布資料のレビュー 事後学修時間：20分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p>	*野本 たかと

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2022/12/14 (水) 1時限 09:00～10:30	外科系 1 3 摂食嚥下リハビリ テーション1	<p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 7 主要な疾患と障害の病因・病態 イ 口腔・顎顔面領域の疾患と障害の概念 f 摂食嚥下障害</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢 6 口腔・顎顔面の機能 ウ 食物摂取 c 嚥下、嘔吐 8 人体の成長・発達・加齢 ウ 口腔・顎の機能の発達 a 咀嚼・嚥下機能 総論Ⅳ 主要症候 2 口腔・顎顔面の症候 ケ 口腔機能障害 必修の基本的事項 8 主要な症候 ウ 全身的疾患に関連する口腔・顎顔面領域の症候 j 脳血管・神経・筋疾患に伴う症候（摂食嚥下障害など）</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能 ⑨嚥下の意義と制御機構を説明できる。 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (1 1) 口腔・顎顔面領域の機能障害 ②摂食嚥下障害の原因、診察、検査、診断及び治療方針を説明できる。</p>	*野本 たかと
2022/12/21 (水) 1時限 09:00～10:30	外科系 1 4 摂食嚥下リハビリ テーション2	<p>【授業の一般目標】 摂食・嚥下障害の診断ができるために診査法および検査法を理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する 2. 摂食・嚥下機能障害の診査法および検査法を説明できる。 3. 摂食・嚥下機能障害の診断を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：嚥下障害 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布資料のレビュー 事後学修時間：20分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅳ 主要症候 2 口腔・顎顔面の症候 ケ 口腔機能障害</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅵ 検査 1 口腔検査、顎口腔機能検査 イ 顎口腔機能検査 e 嚥下機能検査</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (1 1) 口腔・顎顔面領域の機能障害 ②摂食嚥下障害の原因、診察、検査、診断及び治療方針を説明できる。 E-5 高齢者、障害者、精神・心身医学的疾患 E-5-1) 高齢者の歯科治療 ⑧摂食嚥下障害の診察、検査及び診断を説明できる。</p>	*野本 たかと *遠藤 眞美
2023/01/11 (水) 1時限 09:00～10:30	外科系 1 5 摂食嚥下リハビリ テーション3	<p>【授業の一般目標】 摂食・嚥下リハビリテーションができるよう訓練法を理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する 2. 間接訓練法と直接訓練法について説明できる。 3. 嚥下障害と誤嚥性肺炎について説明できる。 4. 嚥下障害と栄養について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：リハビリテーション 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布資料のレビュー 事後学修時間：20分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p>	*遠藤 眞美

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2023/01/11 (水) 1時限 09:00～10:30	外科系15 摂食嚥下リハビリ テーション3	<p>無</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 12 治療の基礎・基本手技 シ 口腔機能のリハビリテーション a 機能の回復〈咀嚼機能、摂食嚥下機能、構音機能〉</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 6 リハビリテーション イ リハビリテーションの技術 a 摂食・嚥下障害のリハビリテーション 歯科医学各論 各論Ⅴ 高齢者等に関連した疾患・病態・予防ならびに歯科診療 1 高齢者等の歯科診療で注意すべき疾患・病態・症候 ウ 摂食嚥下障害 c 嚥下障害 6 摂食嚥下障害への対応(摂食機能療法) イ 代償的アプローチ ウ 環境改善的アプローチ</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (11) 口腔・顎顔面領域の機能障害 ②摂食嚥下障害の原因、診察、検査、診断及び治療方針を説明できる。 E-5 高齢者、障害者、精神・心身医学的疾患 E-5-1) 高齢者の歯科治療 ⑨摂食嚥下リハビリテーションを説明できる。</p>	*遠藤 眞美
2023/01/18 (水) 1時限 09:00～10:30	外科系16 平常試験・解説講 義	<p>【授業の一般目標】 客観問題を中心に出題する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する 2. 多肢選択問題に解答する</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：総合医学外科系 事前学修時間：2時間 事後学修項目：回答の確認 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無</p> <p>【学修方略 (LS)】 その他</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 その他 該当なし</p> <p>【コアカリキュラム】</p>	*牧山 康秀

頭蓋・顔面・頭頸部外科系

年次	学期	学修ユニット責任者
4年次	後学期	*牧山 康秀 (脳神経・頭頸部外科学)

学修ユニット 学修目標 (GIO)	単位数：2単位 歯科・口腔外科学と不可分な領域である耳鼻咽喉科学・頭頸部外科学、機能修復・温存に必須の形成外科学、疼痛医学を学習する。
担当教員	*牧山 康秀、*丹羽 秀夫、*嶋原 俊太郎、*久保 英之、*小見山 道、*副島 一孝、*前田 剛、*飯田 崇
教科書	標準耳鼻咽喉科学 鈴木ら 医学書院 口腔顔面痛の診断と治療ハンドブック 日本口腔顔面痛学会 医歯薬出版
評価方法 (EV)	平常試験により評価する。学習状況により減点することがある。積極的な授業参加(質疑応答)で評価することがある。予告のない試験を行うことがある。

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2022/09/12 (月) 1時限 09:00~10:30	頭蓋・顔面・頭頸部外科系1 頭部顔面外傷・総論	<p>【授業の一般目標】 頭部顔面外傷の総論を説明できる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 頭蓋顔面外傷に必要な解剖を説明できる 3. 頭蓋顔面外傷の特殊性、特徴を説明できる 4. 頭蓋顔面外傷の初期診断、初期治療を説明できる 5. 頭蓋顔面外傷の徴候と診断を説明できる 6. 頭蓋顔面外傷の治療を説明できる <p>【準備学修項目と準備学修時間】 頭蓋顔面の解剖を説明できる。 外傷の総論が説明できる。 事前学修項目：頭頸部顔面外傷総論 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布資料のレビュー 事後学修時間：15分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 ウ 歯・歯槽骨・顎骨・顔面骨の損傷の病態・診断・治療 e 頬骨・頬骨弓骨折</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 ア 顎顔面の変形をきたす疾患・病態・診断 c 顎顔面に異常を来す骨系統疾患・症候群 d 上顎骨骨折 f 鼻骨骨折</p> <p>【コアカリキュラム】 F シミュレーション実習 (模型実習・相互演習 (実習)) F-2 基本的診察法 F-2-2) 全身状態の把握及び歯科治療に必要な診察と検査 ③頭頸部の状態の診察ができる (視診、触診、打診、聴診、温度診)。</p>	*牧山 康秀
2022/09/20 (火) 1時限 09:00~10:30	頭蓋顔面頭頸部外科系2 耳鼻咽喉科学総論 解剖・生理・機能	<p>【授業の一般目標】 耳鼻咽喉科学が歯科医学においてどのような位置づけにあるのかを理解し、解剖、生理について説明できる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 耳鼻咽喉科領域の解剖を説明できる 3. 耳鼻咽喉科領域の生理を説明できる <p>【準備学修項目と準備学修時間】 聴器、平衡器、鼻腔、副鼻腔、咽頭喉頭の解剖と生理が説明できる。 事前学修項目：耳鼻咽喉科解剖、生理 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布資料のレビュー 事後学修時間：15分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有：ミニッツペーパー</p> <p>【学修方略 (LS)】</p>	*丹羽 秀夫

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2022/09/20 (火) 1時限 09:00～10:30	頭蓋顔面頭頸部外 科系2 耳鼻咽喉科学総論 解剖・生理・機能	講義 【場所(教室/実習室)】 302教室 【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 5 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系(骨格系(関節を含む)、筋系、呼吸器系、循環器系(脈管系)、 消化器系(歯および唾液腺を含む)、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、 内分泌系、感覚器系) 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能 ①頭頸部の体表と内臓の区分と特徴を説明できる。 ④頭頸部の脈管系を説明できる。 ①咽頭と喉頭の構造と機能を説明できる。 ⑫扁桃の構造、分布及び機能を説明できる。	*丹羽 秀夫
2022/09/26 (月) 1時限 09:00～10:30	頭蓋顔面頭頸部外 科系3 耳科学総論	【授業の一般目標】 耳の臨床解剖・機能を説明できる。 【行動目標(SBOs)】 1.臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2.聴器、平衡器の臨床解剖、生理を説明できる 【準備学修項目と準備学修時間】 聴器、平衡器の解剖生理を説明できる。 事前学修項目:耳科学 事前学修時間:30分 事後学修項目:授業時配布資料のレビュー 事後学修時間:15分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし 【学修方略(LS)】 講義 【場所(教室/実習室)】 302教室 【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 5 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系(骨格系(関節を含む)、筋系、呼吸器系、循環器系(脈管系)、 消化器系(歯および唾液腺を含む)、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、 内分泌系、感覚器系) 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4)-(6) 感覚器系と感覚 ①特殊感覚器の構造と特殊感覚を説明できる。	嶋原 俊太郎
2022/10/03 (月) 1時限 09:00～10:30	頭蓋顔面頭頸部外 科系4 疼痛学総論	【授業の一般目標】 疼痛学の基礎を説明できる。 【行動目標(SBOs)】 1.臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2.口腔・顎・顔面・頭部の痛覚伝導路を説明できる 3.口腔・顎・顔面・頭部の筋支配を説明できる 4.疼痛の定義、意義、機能を説明できる 5.疼痛の分類を説明できる 【準備学修項目と準備学修時間】 口腔・顎・顔面・頭部の知覚と運動の解剖生理を説明できる。 事前学修項目:疼痛一般 事前学修時間:30分 事後学修項目:授業時配布資料のレビュー 事後学修時間:15分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし 【学修方略(LS)】 講義 【場所(教室/実習室)】 302教室 【国家試験出題基準(主)】 歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態 1 病因、病態 ケ 疼痛 d 口腔・顔面領域の疼痛 【国家試験出題基準(副)】 歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態	*小見山 道 *牧山 康秀

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2022/10/03 (月) 1時限 09:00～10:30	頭蓋顔面頭頸部外 科系 4 疼痛学総論	1 病因、病態 ケ 疼痛 a 侵害受容性疼痛 b 神経障害性疼痛 c 心理社会的要因による疼痛 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4 身体を構成する組織と器官 C-3-4)-(5) 神経系 ①末梢神経系の種類、走行及び支配領域を説明できる。 ②体性神経系と自律神経系の構造と機能を説明できる。 ④脳と脊髄の構造と機能(運動機能、感覚機能、高次神経機能及び自律機能)を説明できる。 ⑤脳血管の構造と分布及び機能的特徴を説明できる。	*小見山 道 *牧山 康秀
2022/10/17 (月) 1時限 09:00～10:30	頭蓋顔面頭頸部外 科系 5 非歯原性歯痛 1	【授業の一般目標】 口腔・顎・顔面領域に発生する非歯原性歯痛に対応できるようになるために、各種原因疾患の診査、診断治療方針に関する基本的知識を理解する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 非歯原性歯痛の原因疾患を概説できる。 3. 非歯原性歯痛の対応法を概説できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 非歯原性歯痛の原因疾患と対応法について調べる。 事前学修項目：顎関節症、神経障害性疼痛 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布資料のレビュー 事後学修時間：15分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 302教室 【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅳ 歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害 1 病態 カ 口腔機能障害・口腔顔面痛 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4)-(10) 口腔・顎顔面領域に症状を現す疾患 ⑩口腔・顎顔面領域の慢性的の痛みの原因、症状及び治療法を説明できる。	*飯田 崇 *小見山 道 *牧山 康秀 久保 英之
2022/10/24 (月) 1時限 09:00～10:30	頭蓋顔面頭頸部外 科系 6 疼痛学各論 頭部・顔面領域の 慢性疼痛	【授業の一般目標】 慢性の頭痛・顔面痛について説明できる。 【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 緊張型頭痛、片頭痛、群発頭痛が説明できる 3. 三叉神経痛、舌咽神経痛が説明できる 4. 非定型顔面痛、非定型歯痛が説明できる 5. 帯状疱疹後神経痛が説明できる 6. 複合性局所疼痛症候群が説明できる 【準備学修項目と準備学修時間】 疼痛の基礎医学を説明できる。 疼痛の臨床的意味を説明できる。 事前学修項目：慢性疼痛 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布資料のレビュー 事後学修時間：15分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 302教室 【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態 1 病因、病態 ケ 疼痛 d 口腔・顔面領域の疼痛 【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 3 主として機能に関連する疾患の病態・診断・治療 イ 神経疾患の病態・診断・治療 d 舌咽神経痛	*牧山 康秀 *小見山 道 久保 英之

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2022/10/24 (月) 1時限 09:00～10:30	頭蓋顔面頭頸部外 科系 6 疼痛学各論 頭部・顔面領域の 慢性疼痛	e 舌下神経麻痺 f 非菌原性歯痛 g 外傷性神経障害 i 帯状疱疹後神経痛 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (9) 神経疾患 ②三叉神経痛の原因、症状及び治療法を説明できる。	* 牧山 康秀 * 小見山 道 久保 英之
2022/10/31 (月) 1時限 09:00～10:30	頭蓋顔面頭頸部外 科系 7 鼻科学各論 咽喉頭科学総論各 論	【授業の一般目標】 鼻科領域において歯科医学と関連の深い検査法・診断・治療を説明できる。 咽頭・喉頭の解剖・機能を説明できる。 【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 副鼻腔炎の病態、症状、診断、治療について説明できる。 3. 咽喉頭疾患を説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 鼻腔、副鼻腔の解剖と生理を説明できる。 事前学修項目：鼻副鼻腔疾患 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布資料のレビュー 事後学修時間：15分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有：ミニッツペーパー 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 302教室 【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 ウ 軟組織の炎症の病態・診断・治療 d 歯性上顎洞炎 【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 オ 軟組織に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患 i 上顎洞癌 o 腫瘍類似疾患 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (8) 呼吸器系 ①気道系の構造と機能を説明できる。	* 丹羽 秀夫
2022/11/07 (月) 1時限 09:00～10:30	頭蓋顔面頭頸部外 科系 8 形成外科総論・顎 顔面領域の形成外 科総論	【授業の一般目標】 形成外科の理念・方法論を理解する。 顎顔面領域で関わる形成外科の疾患を説明できる。 顎顔面領域における歯科ならびに形成外科学的審美学を理解する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 形成外科を定義できる 3. 形成外科の対象となる顎顔面領域の先天異常、外傷、組織欠損、再生医療について説明できる 4. 顎顔面領域における審美学を説明できる 【準備学修項目と準備学修時間】 皮膚の組織、創傷の治療を説明できる。 事前学修項目：形成外科総論 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布資料のレビュー 事後学修時間：15分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 302教室 【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢 4 頭頸部の構造 ア 頭頸部の部位 【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患	副島 一孝

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2022/11/07 (月) 1時限 09:00～10:30	頭蓋顔面頭頸部外 科系8 形成外科総論・顎 顔面領域の形成外 科総論	1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 ア 先天異常と変形を主徴とする疾患の病態・診断・治療 a 口唇裂・口蓋裂 b 口唇・頬部の異常 c 舌・口底の異常 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (1) 先天異常及び後天異常 ①口腔・頭蓋・顎顔面に症状を示す先天異常を説明できる。 ②口唇裂・口蓋裂の病態と治療方針を説明できる。	副島 一孝
2022/11/14 (月) 1時限 09:00～10:30	頭蓋顔面頭頸部外 科系9 形成外科学各論1 口唇裂・口蓋裂	【授業の一般目標】 口唇裂、口蓋裂を説明できる。 【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 口唇裂、口蓋裂を定義できる 3. 口唇裂、口蓋裂の分類、疫学、病態、合併症、解剖、治療計画、手術について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 顔面の発生学と臨床解剖を説明できる。 事前学修項目：口蓋裂、口唇裂 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布資料のレビュー 事後学修時間：15分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 302教室 【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢 9 口腔・顎顔面の発生・成長・発育 ア 頭頸部の形成 b 顎顔面 (口蓋、顎関節を含む) 【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論Ⅰ 成長発育に関連した疾患・病態 1 口腔・顎顔面の発育を障害する先天異常 ア 口腔・顎顔面の先天異常 b 口唇裂・口蓋裂 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (1) 先天異常及び後天異常 ②口唇裂・口蓋裂の病態と治療方針を説明できる。	樫村 勉
2022/11/21 (月) 1時限 09:00～10:30	頭蓋顔面頭頸部外 科系10 非歯原性歯痛2	【授業の一般目標】 歯に原因がないにも関わらず歯に疼痛を引き起こす非歯原性歯痛の適切な診査、 診断、治療方針の決定ができるようになるために、各種原因疾患の特長と対応 法を理解する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 筋・筋膜痛による関連痛の特徴が説明できる 3. 神経障害性疼痛による歯痛の特長が説明できる。 4. 神経血管性頭痛による歯痛の特徴が説明できる。 5. その他の原因による非歯原性歯痛による歯痛の特徴が説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 疼痛学総論、疼痛学各論1、疼痛学各論2の内容。 事前学修項目：慢性疼痛 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布資料のレビュー 事後学修時間：15分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 302教室 【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅳ 歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害 1 病態 カ 口腔機能障害・口腔顔面痛 【コアカリキュラム】	*飯田 崇 *小見山 道 *牧山 康秀 久保 英之

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2022/11/21 (月) 1時限 09:00～10:30	頭蓋顔面頭頸部外 科系 1 0 非歯原性歯痛 2	E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (9) 神経疾患 ①口腔顔面痛を説明できる。	*飯田 崇 *小見山 道 *牧山 康秀 久保 英之
2022/11/28 (月) 1時限 09:00～10:30	頭蓋顔面頭頸部外 科系 1 1 顎顔面領域の神経 疾患	【授業の一般目標】 顎顔面領域の神経支配を説明できる。 神経疾患による顎顔面領域の症状・病態・診断につ いて説明できる。 【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 顔面けいれん、口腔ジスキネジーについて説明できる。 3. 顔面神経麻痺、Ramsay Hunt症候群について説明できる。 4. 三叉神経麻痺、舌神経麻痺、舌下神経麻痺について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 頭部、顔面、口腔、頸部の解剖、生理について説明できる。 けいれん、不随意運動、てんかんを定義できる。 事前学修項目：顔面神経麻痺、三叉神経痛等 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布資料のレビュー 事後学修時間：15分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 302教室 【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅳ 主要症候 1 全身の症候 ク 神経系、感覚器系 【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 3 主として機能に関連する疾患の病態・診断・治療 イ 神経疾患の病態・診断・治療 b 三神経麻痺 c 顔面神経麻痺 e 舌下神経麻痺 h 顔面けいれん 4 主として全身に関連する疾患の病態・診断・治療 ア 口腔・顎顔面に異常をきたす骨系統疾患・症候群 j Ramsay Hunt症候群<Hunt症候群> 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (9) 神経疾患 ②三叉神経痛の原因、症状及び治療法を説明できる。 ③顔面神経麻痺の原因、症状及び治療法を説明できる。 ④三叉神経麻痺 (感覚麻痺、運動麻痺) の原因、症状及び治療法を説明できる。	*牧山 康秀
2022/12/05 (月) 1時限 09:00～10:30	頭蓋顔面頭頸部外 科系 1 2 耳科学各論 めま い・平衡機能	【授業の一般目標】 平衡器官とその疾患について検査・診断・治療法を理解する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. メニエール病、突発性難聴について説明できる。 3. 良性発作性頭位眩暈症、前庭神経炎について説明できる。 4. 聴力検査、他覚聴力検査について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 平衡器の解剖生理について説明できる。 事前学修項目：平衡機能、難聴 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布資料のレビュー 事後学修時間：15分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 302教室 【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 8 主要な症候 ア 全身の症候 a 発熱、全身倦怠感、体重減少・増加、ショック、意識障害、脱水、浮腫、 けいれん、めまい、黄疸、呼吸困難、チアノーゼ、頭痛、動悸、息切れ、胸痛、 睡眠障害、嘔吐、下痢 【国家試験出題基準 (副)】	嶋原 俊太郎

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2022/12/05 (月) 1時限 09:00～10:30	頭蓋顔面頭頸部外 科系1 2 耳科学各論 めま い・平衡機能	<p>歯科医学総論 総論Ⅳ 主要症候 1 全身の症候 ク 神経系、感覚器系</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (6) 感覚器系と感覚 ①特殊感覚器の構造と特殊感覚を説明できる。</p>	嶋原 俊太郎
2022/12/12 (月) 1時限 09:00～10:30	頭蓋顔面頭頸部外 科系1 3 形成外科学各論 2 顔面頭頸部の形成 再建外科	<p>【授業の一般目標】 顔面頭頸部形成再建術に必要な解剖・術式・合併症を説明できる。 顔面頭頸部領域で関わる形成外科的知識を説明できる。 再建外科に必要な皮膚移植（組織移植）について説明できる。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 自家組織移植による再建について説明できる。 3. 植皮術と皮弁について説明できる。 4. 顔面頭頸部再建術を説明できる。 5. 口腔、中咽頭再建術を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 皮弁の作成と創の形成を説明できる。 事前学修項目：再建外科 皮膚移植等 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布資料のレビュー 事後学修時間：15分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 4 手術・周術期の管理、麻酔 ア 手術 g 移植術、再建手術</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 オ 軟組織に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患 e 頬粘膜癌 h 口底癌</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顔面領域の疾患 E-2-4) - (2) 外傷 ⑤軟組織損傷の分類、症状及び処置法を説明できる。</p>	樫村 勉
2022/12/19 (月) 1時限 09:00～10:30	頭蓋顔面頭頸部外 科系1 4 頭頸部腫瘍学	<p>【授業の一般目標】 頭頸部腫瘍、頸部郭清術について説明できる。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 頭頸部腫瘍の診断、治療を説明できる。 3. 頸部郭清術の解剖、術式、合併症を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 頸部の解剖について説明できる。 唾液腺の解剖と生理を説明できる。 事前学修項目：頭頸部腫瘍、頸部郭清術 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布資料のレビュー 事後学修時間：15分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有：ミニッツペーパー</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 カ 腫瘍・腫瘍類似疾患に対する診断・治療 a 外科療法</p> <p>【国家試験出題基準（副）】</p>	*丹羽 秀夫

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2022/12/19 (月) 1時限 09:00～10:30	頭蓋顔面頭頸部外 科系14 頭頸部腫瘍学	<p>歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 オ 軟組織に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患 d 舌癌 i 上顎洞癌 b 化学療法 c 放射線療法 3 主として機能に関連する疾患の病態・診断・治療 ア 唾液腺疾患の病態 g 良性腫瘍 h 悪性腫瘍</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-5 病因と病態 C-5-6) 腫瘍 ①腫瘍の定義を説明できる。 ②腫瘍の病因を説明できる。 ④腫瘍の異型性と組織学的分化度を説明できる。 ⑤良性腫瘍と悪性腫瘍の異同を説明できる。 ⑥腫瘍の増殖、浸潤、再発及び転移を説明できる。</p>	*丹羽 秀夫
2023/01/16 (月) 1時限 09:00～10:30	頭蓋顔面頭頸部外 科系15 頭頸部顔面外傷各論	<p>【授業の一般目標】 頭蓋顔面外傷の各病型の診断治療を説明できる</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 頭蓋骨骨折の分類・診断・治療を説明できる。 3. 眼科骨折の分類・診断・治療を説明できる。 4. 頬骨骨折の分類・診断・治療を説明できる。 5. 上顎Le Fort 骨折の分類・診断・治療を説明できる。 6. 下顎骨骨折の分類・診断・治療を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 頭蓋、顔面の解剖を説明できる。 外傷の総論が説明できる。 頭部・顔面外傷の総論が説明できる。 事前学修項目：顔面外傷各論 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布資料のレビュー 事後学修時間：15分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 イ 軟組織の損傷の病態・診断・治療 b 顔面軟組織の損傷</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 ウ 歯・歯槽骨・顎骨・顔面骨の損傷の病態・診断・治療 a 歯の亀裂・破折・脱臼 b 歯槽骨骨折 c 下顎骨骨折 d 上顎骨骨折 e 頬骨・頬骨弓骨折</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (2) 外傷 ①外傷の種類、特徴及び治癒過程を説明できる。 ②外傷の治療方針 (治療の優先順位) を説明できる。 ③歯の外傷と歯槽骨骨折の原因、種類、症状、診断法及び治療法を説明できる。 ④顎顔面骨折の原因、種類、症状、診断法及び治療法を説明できる。 ⑤軟組織損傷の種類、症状及び処置法を説明できる。</p>	前田 剛
2023/01/23 (月) 1時限 09:00～10:30	頭蓋顔面頭頸部外 科系16 平常試験・解説講 義	<p>【授業の一般目標】 客観問題による試験。 事前学修項目：試験範囲 事前学修時間：30分 事後学修項目：試験の解説 事後学修時間：15分</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 授業の知識習得を確認できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 頭蓋・顔面・頭頸部外科系授業内容の復習。試験への準備。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p>	*牧山 康秀 *丹羽 秀夫

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2023/01/23 (月) 1時限 09:00～10:30	頭蓋顔面頭頸部外 科系16 平常試験・解説講 義	なし 【学修方略 (LS)】 その他 【場所 (教室/実習室)】 302教室 【国家試験出題基準 (主)】 その他 該当なし 【コアカリキュラム】	* 牧山 康秀 * 丹羽 秀夫

有病者歯科検査医学系

年次	学期	学修ユニット責任者
4年次	前学期	* 福本 雅彦 (歯科臨床検査医学)

学修ユニット 学修目標 (GIO)	全身疾患を有する患者に適切な歯科診療を行うために必要な臨床検査の知識を修得する。 1単位
担当教員	* 福本 雅彦、* 深津 晶、* 續橋 治、* 瀧上 真奈、* 小峯 千明
教科書	教科書は使用しない。 教室作成の資料を使用する。 無し
参考図書	栄養アセスメントに役立つ臨床検査の読み方・考え方・ケーススタディ 奈良信夫 医歯薬出版株式会社 臨床検査提要 金井 泉 金原出版
評価方法 (EV)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 出席カード9時00分に配布 2. 全員に出席カード配布終了後の入室は欠席とする。 3. 欠席者は翌週の授業までに欠席届を提出すること (2階歯科臨床検査医学医局) 4. 毎授業前に小テストを行う。 5. 小テストの合格ラインは80%とする。合格ラインに達しない場合はその週の土曜日に再試験 (合格ライン80%) を実施する。再試験にて合格ラインに達しない場合は当日に再度の試験を実施する。再試験を正当な理由なく欠席した場合は最終評価点を上限60点とする。また正当な理由のない2回目以降の再試験欠席は最終評価点の上限を11点ずつ減じる。 例) 再試験1回欠席 最終成績上限60点、2回欠席 最終成績上限49点、3回欠席 最終成績上限38点、4階欠席 最終成績上限 27点 6. 最終成績判定 平常試験 (40%) + 中間試験 (40%) + 小テスト・履修態度 (20%) * : 正当な理由なく授業を1/5以上欠席した場合は評価点上限を60点とする。 履修態度の中には服装・髪型なども含む。
学生への メッセージ オフィスアワー	<p>現代の我が国は超高齢社会であるとともに、小児から成人までの多くの人々が様々なストレスにさらされるストレス社会である。このような社会背景のもと本邦の国民における有病者数は年々増加傾向にある。それゆえ歯科受診者にも何らかの全身疾患を有するにも受診者も当然多数存在する。このことを鑑みると医療を実施する歯科医療者側、医療を受ける患者側の双方が安全・安心・快適な歯科診療を実施できるような知識を身につけることは必要不可欠である。そのためには歯科受診者が現在どのような全身状態なのかを把握することは極めて有用である。臨床検査はそのための重要なツールである。本講義では患者の全身状態の把握のため臨床検査データを解析する能力を獲得することを目的とする。</p> <p>オフィスタイム：午前8時から午後6時位</p>

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2022/04/07 (木) 1時限 09:00~10:30	有病者歯科検査医学1 総論 1) 臨床検査とは 2) 臨床検査の種類 3) 臨床検査の基準値 4) 検査の安全性	<p>【授業の一般目標】 臨床検査医学とはどのような学問かを理解し説明できる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 臨床検査に用いられる検査材料の種類とその取り扱いを説明できる。 3. 各検査項目の臨床的意義を理解し説明できる。 4. 歯科診療における臨床検査の重要性を理解し説明できる。 5. 検体検査・生体検査とは何かを説明できる。 6. 基準値の範囲を説明できる。 7. 検査の安全性を説明できる。 8. 歯科医師国家試験において基準値を理解すべき項目を述べることができる。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修項目：基礎医学科目を理解する。 ・事前学修時間：約45分 ・事後学修項目：授業時に配布したプリントを復習する。 ・事後学修時間：約30分 <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有り (Webclassにて基準値教材を視聴すること) ・パワーポイント・板書・プリント</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 10 検査・臨床判断の基本 ア 意義と目標 a 診断</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 10 検査・臨床判断の基本 イ 検査の安全性</p>	* 福本 雅彦 * 深津 晶 * 續橋 治 * 瀧上 真奈 * 小峯 千明 * 牧村 英樹

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2022/04/07 (木) 1時限 09:00～10:30	有病者歯科検査医学1 総論 1) 臨床検査とは 2) 臨床検査の種類 3) 臨床検査の基準値 4) 検査の安全性	<p>a 実施（必要性）の説明 b 患者・検体の確認 c 検査の合併症・リスク ウ 基準値と結果の解釈 a 基準範囲の概念 b 生理的変動、異常値と原因 c 性差、年齢差 d 症候・病歴（既往歴、投与薬物）との関連 エ 検体検査の種類 a 一般臨床検査</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-1) 診察の基本 ①診察、検査及び診断に必要な事項を列挙できる。 ⑥診断に必要な検査を列挙できる。 E-6 医師と連携するために必要な医学的知識 ②医科疾患合併患者の歯科治療時の注意点を説明できる。 ①全身の症候・病態を説明できる。 ②医科疾患合併患者の歯科治療時の注意点を説明できる。</p>	* 福本 雅彦 * 深津 晶 * 瀧橋 治 * 小峯 真奈 * 牧村 千明 * 英樹
2022/04/14 (木) 1時限 09:00～10:30	有病者歯科検査医学2 1) 血液型 2) 臨床検査の種類 3) 尿検査 一般検査 尿検査 血圧測定法	<p>【授業の一般目標】 臨床検査医学とはどのような学問かを理解し説明できる。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 臨床検査に用いられる検査材料の種類とその取り扱いを説明できる。 3. 各検査項目の臨床的意義を理解し説明できる。 4. 腎臓の形態、尿、尿検査の利点欠点を説明できる。 5. 尿一般検査、尿化学的検査、尿形態学的検査の項目と臨床的意義について説明できる。 6. 尿検査の異常から疑われる疾患について説明できる。 7. 血圧測定法を理解し説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・事前学修項目：基礎医学科目を理解する。解剖学的・組織学的な腎臓の特徴を説明できる。代謝についてを説明できる。 ・事前学修時間：約45分 ・事後学修項目：授業時に配布したプリントを復習する。 ・事後学修時間：約30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有り（Webclassにて基準値教材を視聴すること）・パワーポイント・板書・プリント</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 10 検査・臨床判断の基本 エ 検体検査の種類 a 一般臨床検査</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論VI 検査 3 検体検査 イ 検体の採取・保存・確認 4 生体機能検査 ア 臓器機能検査 b 心機能検査</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-1) 診察の基本 ①診察、検査及び診断に必要な事項を列挙できる。 E-1-3) 臨床検査 ①臨床検査の目的と適応を説明できる。 ②診断に必要な臨床検査項目を列挙できる。 ⑤臨床検査結果と疾患の関係を説明できる。 E-6 医師と連携するために必要な医学的知識 ①全身の症候・病態を説明できる。 ②医科疾患合併患者の歯科治療時の注意点を説明できる。</p>	* 福本 雅彦 * 深津 晶 * 小峯 千明 * 牧村 英樹
2022/04/21 (木) 1時限 09:00～10:30	有病者歯科検査医学3 血液 1) 血液の組成と役割 2) 採血法 3) 試料の取り扱い 血液疾患（1）貧血①	<p>【授業の一般目標】 血液の組成と役割を理解できる。 採血方法と検体管理方法を理解できる。 貧血について理解できる。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 血液成分について理解し説明できる 3. 採血方法を説明できる 4. 貧血の定義を理解し説明できる 5. 貧血の一般症状について理解し説明できる</p>	* 瀧上 真奈

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2022/04/21 (木) 1時限 09:00~10:30	1) 貧血とは 2) 貧血の分類 3) 貧血の検査	<p>6. 貧血の分類を理解し説明できる 7. 採血のリスクを理解し説明できる。 8. 採血時の検査に与える影響を述べるができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・事前学修項目：血球成分（赤血球、白血球、血小板）、血清成分の働きを説明できる。静脈の位置を説明できる。赤血球の働きについて説明できる。 ・事前学修時間：約45分 ・事後学修項目：授業時に配布したプリントを復習する。 ・事後学修時間：約30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有り（Webclassにて基準値教材を視聴すること）・パワーポイント・板書・プリント</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論VI 検査 3 検体検査 ア 検体検査 b 血液学検査</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論VI 検査 3 検体検査 イ 検体の採取・保存・確認 総論IV 主要症候 1 全身の症候 オ 運動・骨格系、造血器系、免疫系 必修の基本的事項 7 主要な疾患と障害の病因・病態 イ 口腔・顎顔面領域の疾患と障害の概念 n 口腔・顎顔面領域に症状を伴う全身疾患 8 主要な症候 ア 全身の症候 a 発熱、全身倦怠感、体重減少・増加、ショック、意識障害、脱水、浮腫、けいれん、めまい、黄疸、呼吸困難、チアノーゼ、頭痛、動悸、息切れ、胸痛、睡眠障害、嘔吐、下痢 ウ 全身的疾患に関連する口腔・顎顔面領域の症候 a 貧血に伴う症候（舌炎など） b 出血性素因に伴う症候（歯肉出血・抜歯後出血など）</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4 身体を構成する組織と器官 C-3-4-(4) 血液・リンパと循環器系 ④血液の構成要素と役割を説明できる。 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-1) 診察の基本 ①診察、検査及び診断に必要な事項を列挙できる。 ⑥診断に必要な検査を列挙できる。 E-6 医師と連携するために必要な医学的知識 ①全身の症候・病態を説明できる。 ②医科疾患合併患者の歯科治療時の注意点を説明できる。</p>	* 淵上 真奈
2022/04/28 (木) 1時限 09:00~10:30	有病者歯科検査医学4 血液疾患（2）貧血② 4) 各種貧血について 5) 貧血患者の歯科治療における対応について	<p>【授業の一般目標】 貧血について理解できる。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 代表的な貧血とその特徴を理解し説明できる。 3. 貧血患者の歯科治療の対応について理解し説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・事前学修項目：血液の働き、貧血の検査を説明できる。 ・事前学修時間：約45分 ・事後学修項目：授業時に配布したプリントを復習する。 ・事後学修時間：約30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有り（Webclassにて基準値教材を視聴すること）・パワーポイント・板書・プリント</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論III 顎・口腔領域の疾患 4 主として全身に関連する疾患の病態・診断・治療 ク 赤血球系疾患 a 貧血</p>	* 淵上 真奈

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2022/04/28 (木) 1時限 09:00～10:30	有病者歯科検査医学4 血液疾患(2)貧血② 4) 各種貧血について 5) 貧血患者の歯科治療における対応について	<p>【国家試験出題基準(副)】</p> <p>歯科医学総論 総論VI 検査 3 検体検査 ア 検体検査 b 血液学検査 c 生化学検査</p> <p>【コアカリキュラム】</p> <p>C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4)-(4) 血液・リンパと循環器系 ④血液の構成要素と役割を説明できる。 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-1) 診察の基本 ①診察、検査及び診断に必要な事項を列挙できる。 ⑥診断に必要な検査を列挙できる。 E-1-3) 臨床検査 ②診断に必要な臨床検査項目を列挙できる。 E-6 医師と連携するために必要な医学的知識 ①全身の症候・病態を説明できる。 ②医科疾患合併患者の歯科治療時の注意点を説明できる。</p>	* 湖上 真奈
2022/05/12 (木) 1時限 09:00～10:30	有病者歯科検査医学5 出血性素因① 1) 出血性素因とは 2) 出血性素因の分類	<p>【授業の一般目標】</p> <p>出血性素因について理解できる。</p> <p>【行動目標(SBOs)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 止血機序を説明できる。 3. 血液凝固因子の種類および働きを説明できる。 4. 血液凝固の機序を説明できる。 5. 出血性素因の定義および原因を説明でき、原因別に分類することができる。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修項目: 血液の働き、特に血小板および血液凝固因子の働きを説明できる。 ・事前学修時間: 約45分 ・事後学修項目: 授業時に配布したプリントを復習する。 ・事後学修時間: 約30分 <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>有り(Webclassにて基準値教材を視聴すること)・パワーポイント・板書・プリント</p> <p>【学修方略(LS)】</p> <p>講義</p> <p>【場所(教室/実習室)】</p> <p>302教室</p> <p>【国家試験出題基準(主)】</p> <p>歯科医学各論 各論III 顎・口腔領域の疾患 4 主として全身に関連する疾患の病態・診断・治療 サ 赤血球系疾患・白血球系疾患・出血性素因の診断と患者に対する観血的治療、歯科治療時の留意点</p> <p>【国家試験出題基準(副)】</p> <p>歯科医学総論 総論VI 検査 3 検体検査 ア 検体検査 b 血液学検査 c 生化学検査</p> <p>【コアカリキュラム】</p> <p>C 生命科学 C-5 病因と病態 C-5-4) 循環障害 ②出血の原因、種類及び転帰を説明できる。 ③血栓と塞栓の形成機序、形態的特徴、転帰及び関連疾患を説明できる。 E 臨床歯学 E-6 医師と連携するために必要な医学的知識 ①全身の症候・病態を説明できる。 ②医科疾患合併患者の歯科治療時の注意点を説明できる。</p>	* 小峯 千明
2022/05/19 (木) 1時限 09:00～10:30	有病者歯科検査医学6 血液疾患(2)出血性素因② 3) 出血性素因の検査 4) 出血に対する歯科診療時の対応	<p>【授業の一般目標】</p> <p>出血性素因について理解する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 出血性素因を原因別に調べる検査項目および検査意義を説明できる 3. 代表的な出血性素因とその特徴を理解し説明できる 4. 出血性素因患者の歯科診療の対応について理解し説明できる <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修項目: 血液の働き特に血小板および血液凝固因子の働きを説明できる。 ・事前学修時間: 約45分 ・事後学修項目: 授業時に配布したプリントを復習する。 ・事後学修時間: 約30分 	* 小峯 千明

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2022/05/19 (木) 1時限 09:00～10:30	有病者歯科検査医学6 血液疾患(2)出血性素因② 3)出血性素因の検査 4)出血に対する歯科診療時の対応	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有り(Webclassにて基準値教材を視聴すること)・パワーポイント・板書・プリント</p> <p>【学修方略(LS)】 講義</p> <p>【場所(教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 8 主要な症候 ウ 全身の疾患に関連する口腔・顎顔面領域の症候 b 出血性素因に伴う症候(歯肉出血・抜歯後出血など)</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-5 病因と病態 C-5-4) 循環障害 ②出血の原因、種類及び転帰を説明できる。 ③血栓と塞栓の形成機序、形態的特徴、転帰及び関連疾患を説明できる。 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4)-(10) 口腔・顎顔面領域に症状を現す疾患 ①口腔・顎顔面領域に症状を現す血液疾患(貧血、出血性素因、白血病)とスクリーニング検査法を説明できる。 E-6 医師と連携するために必要な医学的知識 ①全身の症候・病態を説明できる。 ②医科疾患合併患者の歯科治療時の注意点を説明できる。</p>	*小峯 千明
2022/05/26 (木) 1時限 09:00～10:30	有病者歯科検査医学7 糖尿病 糖尿病と歯科診療	<p>【授業の一般目標】 糖尿病について理解できる。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 1.臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2.糖尿病の定義を説明できる。 3.インスリンの働きを説明できる。 4.糖尿病の種類と特徴を説明できる。 5.糖尿病の症状(全身、口腔)および合併症(慢性、急性)を説明できる。 6.糖尿病を調べる検査項目を理解し、その基準値を述べることができる。 7.糖尿病患者へ歯科治療を行う際の注意点を説明できる</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・事前学修項目:人体に必要なエネルギーについて説明できる。栄養の代謝特に糖代謝について説明できる ・事前学修時間:約45分 ・事後学修項目:授業時に配布したプリントを復習する。 ・事後学修時間:約30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有り(Webclassにて基準値教材を視聴すること)・パワーポイント・板書・プリント</p> <p>【学修方略(LS)】 講義</p> <p>【場所(教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準(主)】 歯科医学総論 総論IV 主要症候 1 全身の症候 ケ 内分泌系(代謝、栄養を含む)</p> <p>【国家試験出題基準(副)】 必修の基本的事項 10 検査・臨床判断の基本 エ 検体検査の種類 a 一般臨床検査 c 生化学検査 歯科医学総論 総論IV 主要症候 1 全身の症候 ケ 内分泌系(代謝、栄養を含む) 総論VI 検査 3 検体検査 ア 検体検査 a 一般臨床検査 c 生化学検査 歯科医学各論 各論III 顎・口腔領域の疾患 4 主として全身に関連する疾患の病態・診断・治療 カ 口腔症状を呈する内分泌障害、代謝障害 i 糖尿病</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-1) 診察の基本</p>	*深津 晶

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2022/05/26 (木) 1時限 09:00～10:30	有病者歯科検査医学7 糖尿病 糖尿病と歯科診療	①診察、検査及び診断に必要な事項を列挙できる。 E-1-3) 臨床検査 ①臨床検査の目的と適応を説明できる。 ②診断に必要な臨床検査項目を列挙できる。 ④各臓器における疾患に特有な検査項目を説明できる。 ⑤臨床検査結果と疾患の関係を説明できる。 E-6 医師と連携するために必要な医学的知識 ①全身の症候・病態を説明できる。 ②医科疾患合併患者の歯科治療時の注意点を説明できる。	* 深津 晶
2022/06/02 (木) 1時限 09:00～10:30	有病者歯科検査医学8 中間テスト	【授業の一般目標】 これまでの講義内容の理解度を評価するため中間テストを実施する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. これまでの講義内容を理解する。 【準備学修項目と準備学修時間】 ・事前学修項目：これまでの講義内容を理解する。 ・事前学修時間：約5時間 ・事後学修項目：試験に出題された内容を理解する。 ・事後学修時間：約30分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無し 【学修方略 (LS)】 その他 【場所 (教室/実習室)】 302教室	* 福本 雅彦 * 深津 晶 * 續橋 治 * 小峯 真奈 * 小峯 千明 * 牧村 英樹
2022/06/09 (木) 1時限 09:00～10:30	有病者歯科検査医学9 造血器疾患・腎疾患	【授業の一般目標】 造血器疾患を理解できる。 腎疾患と検査を関連付けられるようになる。 【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 腎臓の機能、主な腎疾患・泌尿器疾患、腎不全、全身疾患や薬剤による腎障害を説明できる。 3. 造血器疾患を列挙できる。 4. 急性骨髄性白血病の臨床病態を述べることができる。 5. 急性リンパ性白血病の臨床病態を述べることができる。 6. 慢性骨髄性白血病の臨床病態を述べることができる。 7. 癌遺伝子・癌抑制遺伝子の役割を説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 ・事前学修項目：腎臓の解剖、生理機能および腎機能検査について説明できる。人体における白血球の働きを説明することができる。人体における白血球の基準値を列挙できる。 ・事前学修時間：約45分 ・事後学修項目：授業時に配布したプリントを復習する。 ・事後学修時間：約30分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有り (Webclassにて基準値教材を視聴すること) ・パワーポイント・板書・プリント 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 302教室 【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢 1 細胞・組織・器官の構造と機能 カ 泌尿器・生殖器系 a 腎臓、尿路 【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅳ 主要症候 1 全身の症候 オ 運動・骨格系、造血器系、免疫系 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 4 主として全身に関連する疾患の病態・診断・治療 ケ 白血球系疾患 a 白血病 サ 赤血球系疾患・白血球系疾患・出血性素因の診断と患者に対する観血的治療、歯科治療時の留意点 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (10) 泌尿器系と体液・電解質調節 ①腎臓、尿管、膀胱及び尿道の構造と機能を説明できる。 ②体液の量と組成及び浸透圧の調節機構を説明できる。 ③水代謝と主な電解質の出納とその異常を説明できる。 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-1) 診察の基本	* 福本 雅彦 * 深津 晶 * 小峯 千明 * 牧村 英樹

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2022/06/09 (木) 1時限 09:00～10:30	有病者歯科検査医学9 造血器疾患・腎疾患	①診察、検査及び診断に必要な事項を列挙できる。 ⑥診断に必要な検査を列挙できる。 E-1-3) 臨床検査 ①臨床検査の目的と適応を説明できる。 ⑤臨床検査結果と疾患の関係を説明できる。 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (10) 口腔・顎顔面領域に症状を現す疾患 ①口腔・顎顔面領域に症状を現す血液疾患(貧血、出血性素因、白血病)とスクリーニング検査法を説明できる。 E-6 医師と連携するために必要な医学的知識 ①全身の症候・病態を説明できる。 ②医科疾患合併患者の歯科治療時の注意点を説明できる。	*福本 雅彦 *深津 晶 *小峯 千明 *牧村 英樹
2022/06/16 (木) 1時限 09:00～10:30	有病者歯科検査医学10 肝臓の機能と検査	【授業の一般目標】 肝臓の働き・検査を理解できる 肝疾患について説明できる 【行動目標(SBOs)】 1.臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2.肝臓の働きを説明できる 3.肝機能検査について理解し、検査の意義を説明できる 4.各種検査から疑われる肝臓の異常を説明できる 5.急性・慢性肝炎、肝硬変について説明できる 6.肝疾患が及ぼす歯科治療への影響について説明できる 【準備学修項目と準備学修時間】 ・事前学修項目:肝臓の解剖学的、組織学的特徴を説明できる。栄養の代謝を説明できる。 ・事前学修時間:約45分 ・事後学修項目:授業時に配布したプリントを復習する。 ・事後学修時間:約30分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有り(Webclassにて基準値教材を視聴すること)・パワーポイント・板書・プリント 【学修方略(LS)】 講義 【場所(教室/実習室)】 302教室 【国家試験出題基準(主)】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢 1 細胞・組織・器官の構造と機能 エ 消化器系 b 肝臓、胆道、膵臓 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (7) 消化器系 ②肝臓の構造と機能及び胆汁と胆道系を説明できる。 E 臨床歯学 E-6 医師と連携するために必要な医学的知識 ②医科疾患合併患者の歯科治療時の注意点を説明できる。 ①全身の症候・病態を説明できる。 ②医科疾患合併患者の歯科治療時の注意点を説明できる。	*深津 晶
2022/06/23 (木) 1時限 09:00～10:30	有病者歯科検査医学11 感染症1/3	【授業の一般目標】 感染症について理解する。 院内感染対策について理解する。 【行動目標(SBOs)】 1.臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2.主な細菌感染について説明できる。 3.主なウイルス感染症について説明できる。 4.院内感染対策について説明できる。 5.HIV感染症について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 主なウイルス感染症について説明できる。 主な細菌感染症について説明できる。 院内感染対策について説明できる。 事前学修項目:生理、解剖、病理を確認すること。 事前学修時間:25分 事後学修項目:授業配布資料を再読。 事後学修時間:15分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有り(Webclassにて基準値教材を視聴すること)・パワーポイント・板書・プリント 【学修方略(LS)】 講義 【場所(教室/実習室)】 302教室 【国家試験出題基準(主)】 歯科医学総論	*福本 雅彦 *小峯 千明

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2022/06/23 (木) 1時限 09:00~10:30	有病者歯科検査医学1 1 感染症1/3	<p>総論Ⅲ 病因、病態 1 病因、病態 カ 感染症 c 感染症</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 必修の基本的事項 2 社会と歯科医療 カ 院内感染対策 a 標準予防策<standard precautions> 歯科医学総論 総論Ⅰ 保健・医療と健康増進 7 感染症対策 ア 感染症対策と疫学 b 感染症の予防 c 院内感染対策 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 4 主として全身に関連する疾患の病態・診断・治療 イ 口腔症状を呈するウイルス感染症 a ヒト免疫不全ウイルス<HIV>感染症 b 風疹 c 麻疹 d 水痘・带状疱疹 f 手足口病 g ヘルパンギーナ</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-4 感染と免疫 C-4-1) 感染 ①細菌、真菌、ウイルス及び原虫の基本的な構造と性状を説明できる。 ②細菌、真菌、ウイルス及び原虫のヒトに対する感染機構と病原性を説明できる。 ③感染症の種類、予防、診断及び治療を説明できる。 ④滅菌と消毒の意義、種類及び原理を説明できる。 ⑤化学療法の目的と原理及び化学療法薬の作用機序並びに薬剤耐性機序を説明できる。</p>	*福本 雅彦 *小峯 千明
2022/06/30 (木) 1時限 09:00~10:30	有病者歯科検査医学1 2 感染症2/3 ウイルス性感染症の概要と臨床検査	<p>【授業の一般目標】 ウイルス性感染症について理解できる。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. HTLV-1感染について説明できる。 3. HSV感染について説明できる。 4. VZV感染について説明できる。 5. 手足口病について説明できる。 6. ヘルパンギーナについて説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・事前学修項目：炎症・感染症の概要が述べられる。感染症の種類を列挙できる。口腔領域に症状を示す感染症を挙げることができる。 ・事前学修時間：約45分 ・事後学修項目：授業時に配布したプリントを復習する。 ・事後学修時間：約30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有り（Webclassにて基準値教材を視聴すること）・パワーポイント・板書・プリント</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 8 主要な症候 ウ 全身的疾患に関連する口腔・顎顔面領域の症候 d 後天性免疫不全症候群 <AIDS> に伴う症候（カンジダ症、歯周疾患、毛状<様>白板症など）</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 必修の基本的事項 8 主要な症候 ウ 全身的疾患に関連する口腔・顎顔面領域の症候 f 結核・梅毒に伴う症候（粘膜斑、潰瘍など） 7 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 e 感染症 f 免疫異常 8 主要な症候 ウ 全身的疾患に関連する口腔・顎顔面領域の症候 d 後天性免疫不全症候群 <AIDS> に伴う症候（カンジダ症、歯周疾患、毛状<様>白板症など） e ウイルス感染に伴う症候（水痘など） f 結核・梅毒に伴う症候（粘膜斑、潰瘍など） 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 4 主として全身に関連する疾患の病態・診断・治療 イ 口腔症状を呈するウイルス感染症 a ヒト免疫不全ウイルス<HIV>感染症 j 免疫疾患</p>	*續橋 治

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2022/06/30 (木) 1時限 09:00～10:30	有病者歯科検査医学1 2 感染症2/3 ウイルス性感染症の概要と臨床検査	<p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-4 感染と免疫 C-4-1) 感染 ①細菌、真菌、ウイルス及び原虫の基本的な構造と性状を説明できる。 ②細菌、真菌、ウイルス及び原虫のヒトに対する感染機構と病原性を説明できる。 ③感染症の種類、予防、診断及び治療を説明できる。 ④滅菌と消毒の意義、種類及び原理を説明できる。 ⑤化学療法目的と原理及び化学療法薬の作用機序並びに薬剤耐性機序を説明できる。 C-4-2) 免疫 ③免疫系担当臓器・細胞の種類と機能を説明できる。 ⑧ワクチンの意義と種類、特徴及び副反応を説明できる。 E 臨床歯学 E-6 医師と連携するために必要な医学的知識 ①全身の症候・病態を説明できる。 ②医科疾患合併患者の歯科治療時の注意点を説明できる。</p>	* 續橋 治
2022/07/07 (木) 1時限 09:00～10:30	有病者歯科検査医学1 3 歯科医師国家試験に必要な臨床検査	<p>【授業の一般目標】 歯科医師国家試験に合格するために必要な臨床検査項目と疾患の関連を理解できる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 貧血に関する検査を列挙できる。 3. 各種感染症に関する検査とその基準値を述べるができる。 4. 糖尿病に関する検査とその基準値を述べるができる。 5. 肝機能に関する検査とその基準値を述べるができる。 6. 輸血に関する検査を列挙できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・事前学修項目：歯科医師国家試験において覚えておかなければならない（国家試験問題に基準値記載がされない）検査項目の基準値を述べるができるようにしておく。 ・事前学修時間：約45分 ・事後学修項目：授業時に配布したプリントを復習する。 ・事後学修時間：約30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有り (Webclassにて基準値教材を視聴すること) ・パワーポイント・板書・プリント</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302 教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 10 検査・臨床判断の基本 ア 意義と目標 a 診断</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 10 検査・臨床判断の基本 ア 意義と目標 b 治療効果の判定、治療経過の評価 c スクリーニング、医療情報の収集 イ 検査の安全性 a 実施 (必要性) の説明 b 患者・検体の確認 c 検査の合併症・リスク ウ 基準値と結果の解釈 a 基準範囲の概念 b 生理的変動、異常値と原因 c 性差、年齢差 d 症候・病歴 (既往歴、投与薬物) との関連</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-3) 臨床検査 ①臨床検査の目的と適応を説明できる。 ②診断に必要な臨床検査項目を列挙できる。 ④各臓器における疾患に特有な検査項目を説明できる。 ⑤臨床検査結果と疾患の関係を説明できる。 E-6 医師と連携するために必要な医学的知識 ①全身の症候・病態を説明できる。 ②医科疾患合併患者の歯科治療時の注意点を説明できる。</p>	* 福本 雅彦 * 小峯 千明 * 牧村 英樹
2022/07/14 (木) 1時限 09:00～10:30	有病者歯科検査医学1 4 感染症3/3 ウイルス性感染症について	<p>【授業の一般目標】 ウイルス感染症について理解できる</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. ウイルス性肝炎の種類を列挙でき 3. B・C型肝炎の病態を述べるができる 4. B・C型肝炎の臨床検査方法を説明することができる 5. B・C型肝炎の感染防止および消毒法を述べることができる 6. H I V感染症の病態を述べるができる 7. H I V感染症の臨床検査方法を説明することができる 8. H I V感染症の感染防止および消毒法を述べるができる</p>	* 續橋 治

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2022/07/14 (木) 1時限 09:00～10:30	有病者歯科検査医学14 感染症3/3 ウイルス性感染症について	<p>9. Epstein-Barrウイルス感染症の病態を述べるができる。 10. Epstein-Barrウイルス感染症の臨床検査方法を説明することができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・事前学修項目：歯科領域に関連の深いウイルスを列挙できる。 ・事前学修時間：約45分 ・事後学修項目：授業時に配布したプリントを復習する。 ・事後学修時間：約30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有り（Webclassにて基準値教材を視聴すること）・パワーポイント・板書・プリント</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 10 検査・臨床判断の基本 エ 検体検査の種類 d 免疫血清学検査</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論V 診察 6 全身疾患を有する者への対応 ア 留意すべき疾患 i 感染症</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-4 感染と免疫 C-4-1) 感染 ①細菌、真菌、ウイルス及び原虫の基本的な構造と性状を説明できる。 ②細菌、真菌、ウイルス及び原虫のヒトに対する感染機構と病原性を説明できる。 ③感染症の種類、予防、診断及び治療を説明できる。 ④滅菌と消毒の意義、種類及び原理を説明できる。 ⑤化学療法目的と原理及び化学療法薬の作用機序並びに薬剤耐性機序を説明できる。 E 臨床歯学 E-6 医師と連携するために必要な医学的知識 ①全身の症候・病態を説明できる。 ②医科疾患合併患者の歯科治療時の注意点を説明できる。</p>	*續橋 治
2022/07/21 (木) 1時限 09:00～10:30	有病者歯科検査医学15 腫瘍マーカー・自己抗体・自己免疫疾患	<p>【授業の一般目標】 歯科医師国家試験出題基準に基づいた腫瘍マーカー、自己抗体およびそれに伴う自己免疫疾患について理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 自己抗体の種類を述べるができる。 3. 自己抗体と疾患の関係を述べることができる。 4. 腫瘍マーカーの種類を述べることができる。 5. 腫瘍マーカーと疾患の関係を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・事前学修項目：自己免疫疾患とは何か説明できる。 ・事前学修時間：約45分 ・事後学修項目：授業時に配布したプリントを復習する。 ・事後学修時間：約30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有り（Webclassにて基準値教材を視聴すること）・パワーポイント・板書・プリント</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 10 検査・臨床判断の基本 エ 検体検査の種類 c 生化学検査</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論IV 主要症候 1 全身の症候 オ 運動・骨格系、造血器系、免疫系 歯科医学各論 各論III 顎・口腔領域の疾患 4 主として全身に関連する疾患の病態・診断・治療 オ 口腔症状を呈する自己免疫疾患 a 天疱瘡、類天疱瘡</p> <p>【コアカリキュラム】</p>	*淵上 真奈

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2022/07/21 (木) 1時限 09:00～10:30	有病者歯科検査医学15 腫瘍マーカー・自己抗体・自己免疫疾患	C 生命科学 C-4 感染と免疫 C-4-2) 免疫 ⑥免疫不全症・自己免疫疾患の種類、発症機序及び病態を説明できる。 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-3) 臨床検査 ②診断に必要な臨床検査項目を列挙できる。 E-6 医師と連携するために必要な医学的知識 ②医科疾患合併患者の歯科治療時の注意点を説明できる。 ①全身の症候・病態を説明できる。 ②医科疾患合併患者の歯科治療時の注意点を説明できる。	* 瀧上 真奈
2022/08/25 (木) 1時限 09:00～10:30	有病者歯科検査医学16 平常試験 解説講義	【授業の一般目標】 臨床検査医学とはどのような学問かを理解し説明できる。 【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 各種臨床検査項目を説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 ・事前学修項目：これまでの講義内容を理解する。 ・事前学修時間：約10時間 ・事後学修項目：試験で出題された内容を理解する。 ・事後学修時間：約30分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 Webclassにて基準値教材を視聴すること 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 302教室	* 福本 雅彦 * 深津 晶 * 瀨橋 治 * 瀧上 真奈 * 小峯 千明 * 牧村 英樹

内科系

年次	学期	学修ユニット責任者
4年次	前学期	*山口 秀紀 (歯科麻酔学)

学修ユニット 学修目標 (GIO)	単位数：2単位 歯科診療において全人的医療を遂行する上で必要な医学的知識を理解する。
担当教員	*大口 純人、*井上 文央
教科書	テキストを配布する。
参考図書	新臨床内科学第8版 高久史磨 医学書院 歯科のための内科学 改訂第3版 井田和徳 南江堂 チャート式こんな患者が来院したら 和嶋浩一 デンタルダイヤモンド社 有病者歯科ポケットブック全身疾患VS 歯科治療 渋谷鑑 デンタルダイヤモンド社
評価方法 (EV)	平常試験 (多肢選択問題) によって評価点 (100%) とする。
学生への メッセージ オフィスアワー	すでに履修した生理学, 生化学, 病理学, 解剖学などと系統立てて学習すると理解しやすい。 全人的医療という言葉が表わすように、患者さんを取り巻く社会的、生理的、心理的、倫理的といった様々な要素を理解するために幅広い知識が要求されます。歯科医学を遂行する上で必ず役に立つ時が来ますので、集中して受講してください。 内科オフィスアワー 午前8 時ころから午後5 時ころまで。

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2022/04/07 (木) 2時限 10:40~12:10	内科系1 循環器疾患 (1)	<p>【授業の一般目標】 循環器系の解剖、生理機能について理解する。 循環器系の疾患について理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 循環動態、高血圧症、虚血性心疾患、感染性心内膜炎関連疾患について説明できる。 3. 弁膜症、心筋症について説明できる。 4. 心不全、動脈疾患について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 循環器系の解剖、生理機能について説明できる。 循環器系の疾患について説明できる。 事前学修項目：生理、解剖、病理を確認すること。 事前学修時間：25分 事後学修項目：授業配布資料を再読。 事後学修時間：15分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢 1 細胞・組織・器官の構造と機能 ウ 呼吸器・循環器系 b 心臓、脈管系</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅳ 主要症候 1 全身の症候 ウ 呼吸器・循環器系 総論Ⅲ 病因、病態 1 病因、病態 エ 循環障害 a 全身の循環障害 b 局所の循環障害 総論Ⅵ 検査 2 画像検査 ク 超音波検査 a 原理、特徴、適応 4 生体機能検査 ア 臓器機能検査 b 心機能検査 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 4 主として全身に関連する疾患の病態・診断・治療 ス 全身管理に留意すべき疾患・状態 b 循環器・脳血管疾患</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学</p>	*下坂 典立 *中村 真実

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2022/04/07 (木) 2時限 10:40～12:10	内科系1 循環器疾患(1)	C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (4) 血液・リンパと循環器系 ①心臓の構造、発生、機能及び心電図波形を説明できる。 ②血液循環(肺循環、体循環及び胎児循環)の経路と主要な動静脈の名称を説明できる。 ③血管の構造と血圧調節機能を説明できる。 C-5 病因と病態 C-5-4) 循環障害 ①虚血、充血及びうっ血の徴候、原因、転帰及び関連疾患を説明できる。 ③血栓と塞栓の形成機序、形態的特徴、転帰及び関連疾患を説明できる。 ④梗塞の種類、形態的特徴、転帰及び関連疾患を説明できる。 ⑤浮腫の原因と転帰を説明できる。	*下坂 典立 *中村 真実
2022/04/14 (木) 2時限 10:40～12:10	内科系2 循環器疾患(2)	【授業の一般目標】 循環器系の解剖、生理機能について理解する。 循環器系の疾患について理解する。 【行動目標(SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 循環動態、高血圧症、虚血性心疾患、感染性心内膜炎関連疾患について説明できる。 3. 弁膜症、心筋症について説明できる。 4. 心不全、動脈疾患について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 循環器系の解剖、生理機能について説明できる。 循環器系の疾患について説明できる。 事前学修項目: 生理、解剖、病理を確認すること。 事前学修時間: 25分 事後学修項目: 授業配布資料を再読。 事後学修時間: 15分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし 【学修方略(LS)】 講義 【場所(教室/実習室)】 302教室 【国家試験出題基準(主)】 歯科医学総論 総論II 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢 1 細胞・組織・器官の構造と機能 ウ 呼吸器・循環器系 b 心臓、脈管系 【国家試験出題基準(副)】 歯科医学総論 総論IV 主要症候 1 全身の症候 ウ 呼吸器・循環器系 総論III 病因、病態 1 病因、病態 エ 循環障害 a 全身の循環障害 b 局所の循環障害 総論VI 検査 2 画像検査 ク 超音波検査 a 原理、特徴、適応 4 生体機能検査 ア 臓器機能検査 b 心機能検査 歯科医学各論 各論III 顎・口腔領域の疾患 4 主として全身に関連する疾患の病態・診断・治療 ス 全身管理に留意すべき疾患・状態 b 循環器・脳血管疾患 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (4) 血液・リンパと循環器系 ①心臓の構造、発生、機能及び心電図波形を説明できる。 ②血液循環(肺循環、体循環及び胎児循環)の経路と主要な動静脈の名称を説明できる。 ③血管の構造と血圧調節機能を説明できる。 C-5 病因と病態 C-5-4) 循環障害 ①虚血、充血及びうっ血の徴候、原因、転帰及び関連疾患を説明できる。 ③血栓と塞栓の形成機序、形態的特徴、転帰及び関連疾患を説明できる。 ④梗塞の種類、形態的特徴、転帰及び関連疾患を説明できる。 ⑤浮腫の原因と転帰を説明できる。	*中村 真実 *下坂 典立
2022/04/21 (木) 2時限 10:40～12:10	内科系3 呼吸器疾患	【授業の一般目標】 呼吸器系の解剖、生理機能について理解する。 呼吸器系の疾患について理解する。 睡眠時無呼吸症候群について理解する。 【行動目標(SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 呼吸器系の解剖、生理機能について説明できる。	*下坂 典立

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2022/04/21 (木) 2時限 10:40~12:10	内科系3 呼吸器疾患	<p>3. 急性呼吸器感染症、肺結核、慢性閉塞性肺疾患、肺腫瘍について説明できる。 4. 睡眠時無呼吸症候群について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 呼吸器系の解剖、生理機能について説明できる。 呼吸器系の疾患について説明できる。 睡眠時無呼吸症候群について説明できる。 事前学修項目：生理、解剖、病理を確認すること。 事前学修時間：25分 事後学修項目：授業配布資料を再読。 事後学修時間：15分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢 1 細胞・組織・器官の構造と機能 ウ 呼吸器・循環器系 a 気道、肺、呼吸筋</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅳ 主要症候 1 全身の症候 ウ 呼吸器・循環器系 総論Ⅵ 検査 2 画像検査 オ CT a 原理、特徴、適応 4 生体機能検査 ア 臓器機能検査 a 呼吸機能検査 総論Ⅴ 診察 6 全身疾患を有する者への対応 ア 留意すべき疾患 a 呼吸器疾患 総論Ⅶ 治療 1 治療の基礎 エ 全身管理に留意すべき疾患・対象 b 呼吸器系 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 4 主として全身に関連する疾患の病態・診断・治療 ウ 口腔症状を呈する細菌感染症 c 結核 a 呼吸器疾患 各論Ⅳ 歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害 1 病態 ク 睡眠時無呼吸 歯科医学総論 総論Ⅵ 検査 5 その他の検査 イ 睡眠検査 a ポリソムノグラフィ</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (8) 呼吸器系 ①気道系の構造と機能を説明できる。 ②肺の構造・機能と呼吸運動を説明できる。</p>	*下坂 典立
2022/04/28 (木) 2時限 10:40~12:10	内科系4 脂質異常・糖尿病	<p>【授業の一般目標】 糖尿病の病態について理解する。 高脂血症の病態について理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 糖尿病とその合併症について説明できる。 3. 高脂血症について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 糖尿病の病態について説明できる。 高脂血症の病態について説明できる。 事前学修項目：生理、解剖、病理を確認すること。 事前学修時間：25分 事後学修項目：授業配布資料を再読。 事後学修時間：15分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p>	*鈴木 正敏

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2022/04/28 (木) 2時限 10:40～12:10	内科系 4 脂質異常・糖尿病	<p>【国家試験出題基準（主）】</p> <p>歯科医学総論 総論Ⅳ 主要症候 1 全身の症候 ケ 内分泌系(代謝、栄養を含む)</p> <p>【国家試験出題基準（副）】</p> <p>必修の基本的事項 4 予防と健康管理・増進 ア 健康増進と疾病予防 e メタボリックシンドローム</p> <p>歯科医学総論 総論Ⅰ 保健・医療と健康増進 8 国民栄養と食生活・食育指導 ア 国民栄養と食品保健 a 国民栄養の現状 c 食生活指針</p> <p>総論Ⅳ 主要症候 1 全身の症候 ケ 内分泌系(代謝、栄養を含む)</p> <p>総論Ⅴ 診察 6 全身疾患を有する者への対応 ア 留意すべき疾患 h 内分泌・代謝疾患</p> <p>総論Ⅶ 治療 1 治療の基礎 エ 全身管理に留意すべき疾患・対象 i 内分泌系</p> <p>歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 4 主として全身に関連する疾患の病態・診断・治療 カ 口腔症状を呈する内分泌障害、代謝障害 i 糖尿病</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (7) 消化器系 ③腺臓（外分泌部と内分泌部）の構造と機能を説明できる。</p>	*鈴木 正敏
2022/05/12 (木) 2時限 10:40～12:10	内科系 5 内分泌系の疾患、 内分泌器官の生理 機能	<p>【授業の一般目標】 内分泌器官の生理機能を理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 甲状腺疾患にちて説明できる。 3. 副甲状腺疾患について説明できる。 4. 副腎疾患について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 甲状腺疾患の病態について説明できる。 副甲状腺疾患の病態について説明できる。 副腎疾患の病態について説明できる。 事前学修項目：生理、解剖、病理を確認すること。 事前学修時間：25分 事後学修項目：授業配布資料を再読。 事後学修時間：15分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】</p> <p>歯科医学総論 総論Ⅳ 主要症候 1 全身の症候 ケ 内分泌系(代謝、栄養を含む)</p> <p>【国家試験出題基準（副）】</p> <p>必修の基本的事項 4 予防と健康管理・増進 ア 健康増進と疾病予防 e メタボリックシンドローム</p> <p>歯科医学総論 総論Ⅰ 保健・医療と健康増進 8 国民栄養と食生活・食育指導 ア 国民栄養と食品保健 a 国民栄養の現状 c 食生活指針</p> <p>総論Ⅳ 主要症候 1 全身の症候 ケ 内分泌系(代謝、栄養を含む)</p> <p>総論Ⅴ 診察 6 全身疾患を有する者への対応 ア 留意すべき疾患 h 内分泌・代謝疾患</p> <p>総論Ⅶ 治療 1 治療の基礎</p>	*鈴木 正敏

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2022/05/12 (木) 2時限 10:40~12:10	内科系5 内分泌系の疾患、 内分泌器官の生理 機能	エ 全身管理に留意すべき疾患・対象 i 内分泌系 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 4 主として全身に関連する疾患の病態・診断・治療 ス 全身管理に留意すべき疾患・状態 i 代謝性疾患 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (7) 消化器系 ③膵臓(外分泌部と内分泌部)の構造と機能を説明できる。	*鈴木 正敏
2022/05/19 (木) 2時限 10:40~12:10	内科系6 肝臓疾患	【授業の一般目標】 肝臓の機能について理解する。 ウイルス性肝炎について理解する。 脂肪肝とメタボリックシンドロームの関係について理解する。 肝硬変、肝臓癌について理解する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 肝臓の機能について説明できる。 3. 肝臓を評価するための検査項目を説明できる。 4. ウイルス性肝炎について説明できる。 5. 脂肪肝とメタボリックシンドロームの関連について説明できる。 6. 肝硬変、肝臓癌について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 肝臓の機能について説明できる。 肝臓を評価するための検査項目を説明できる。 ウイルス性肝炎について説明できる。 脂肪肝とメタボリックシンドロームの関連について説明できる。 肝硬変、肝臓癌について説明できる。 事前学修項目：生理、解剖、病理を確認すること。 事前学修時間：25分 事後学修項目：授業配布資料を再読。 事後学修時間：15分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 302教室 【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢 1 細胞・組織・器官の構造と機能 エ 消化器系 b 肝臓、胆道、膵臓 【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅳ 主要症候 1 全身の症候 エ 消化器系 総論Ⅴ 診察 6 全身疾患を有する者への対応 ア 留意すべき疾患 c 消化器疾患 i 感染症 総論Ⅶ 治療 1 治療の基礎 エ 全身管理に留意すべき疾患・対象 d 消化器系 k 感染症 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 4 主として全身に関連する疾患の病態・診断・治療 ス 全身管理に留意すべき疾患・状態 c 消化器疾患 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (7) 消化器系 ②肝臓の構造と機能及び胆汁と胆道系を説明できる。	*石橋 肇
2022/05/26 (木) 2時限 10:40~12:10	内科系7 腎・泌尿器科疾患	【授業の一般目標】 腎臓の解剖、生理機能について理解する。 腎臓疾患について理解する。 泌尿器疾患について理解する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 腎臓の機能を説明できる。 3. 急性・慢性腎不全を説明できる。 4. 主な腎臓疾患を説明できる。 5. 主な泌尿器疾患を説明できる。	*石橋 肇

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2022/05/26 (木) 2時限 10:40～12:10	内科系7 腎・泌尿器科疾患	<p>【準備学修項目と準備学修時間】 腎臓の解剖、生理機能について説明できる。 急性・慢性腎不全について説明できる。 主な腎臓疾患を説明できる。 主な泌尿器疾患を説明できる。 事前学修項目：生理、解剖、病理を確認すること。 事前学修時間：25分 事後学修項目：授業配布資料を再読。 事後学修時間：15分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢 1 細胞・組織・器官の構造と機能 カ 泌尿器・生殖器系 a 腎臓、尿路</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢 1 細胞・組織・器官の構造と機能 カ 泌尿器・生殖器系 b 体液・電解質調節 総論Ⅳ 主要症候 1 全身の症候 カ 泌尿器・生殖器系 総論Ⅴ 診察 6 全身疾患を有する者への対応 ア 留意すべき疾患 e 泌尿器・生殖器疾患 総論Ⅵ 検査 4 生体機能検査 ア 臓器機能検査 f 腎機能検査 総論Ⅶ 治療 1 治療の基礎 エ 全身管理に留意すべき疾患・対象 f 泌尿器・生殖器系 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 4 主として全身に関連する疾患の病態・診断・治療 ス 全身管理に留意すべき疾患・状態 e 泌尿器・生殖器疾患</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (10) 泌尿器系と体液・電解質調節 ①腎臓、尿管、膀胱及び尿道の構造と機能を説明できる。 ②体液の量と組成及び浸透圧の調節機構を説明できる。 ③水代謝と主な電解質の出納とその異常を説明できる。</p>	*石橋 肇
2022/06/02 (木) 2時限 10:40～12:10	内科系8 消化器の解剖、生理機能、消化器系の疾患	<p>【授業の一般目標】 消化器の解剖について理解する。 消化器の生理機能について理解する。 消化器疾患について理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 消化器の生理機能、解剖について説明できる。 3. 消化器系の疾患について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 消化器の解剖、生理機能について説明できる。 主な消化器疾患を説明できる。 事前学修項目：生理、解剖、病理を確認すること。 事前学修時間：25分 事後学修項目：授業配布資料を再読。 事後学修時間：15分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢</p>	*卯田 昭夫

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2022/06/02 (木) 2時限 10:40~12:10	内科系8 消化器の解剖、生理機能、消化器系の疾患	<p>1 細胞・組織・器官の構造と機能 カ 泌尿器・生殖器系 a 腎臓、尿路</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅳ 主要症候 1 全身の症候 エ 消化器系 総論Ⅴ 診察 6 全身疾患を有する者への対応 ア 留意すべき疾患 c 消化器疾患 総論Ⅵ 検査 4 生体機能検査 ア 臓器機能検査 c 消化管機能検査 総論Ⅶ 治療 1 治療の基礎 エ 全身管理に留意すべき疾患・対象 d 消化器系 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 4 主として全身に関連する疾患の病態・診断・治療 ス 全身管理に留意すべき疾患・状態 c 消化器疾患</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (7) 消化器系 ①消化管の基本構造、消化機能及び調節機構を説明できる。</p>	*卯田 昭夫
2022/06/09 (木) 2時限 10:40~12:10	内科系9 膠原病・アレルギー疾患	<p>【授業の一般目標】 アレルギー疾患の病態を理解する。 膠原病の病態について理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 薬物アレルギーについて説明できる。 3. 金属アレルギーについて説明できる。 4. アレルギーと歯科治療との関連について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 アレルギー疾患の病態を説明できる。 SLE, 慢性関節リウマチについて説明できる。 事前学修項目：生理、解剖、病理を確認すること。 事前学修時間：25分 事後学修項目：授業配布資料を再読。 事後学修時間：15分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 7 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 f 免疫異常</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 必修の基本的事項 8 主要な症候 ウ 全身の疾患に関連する口腔・顎顔面領域の症候 i 臓器・造血幹細胞移植に伴う症候（歯肉出血、移植片対宿主病 <GVHD>など） 歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態 1 病因、病態 キ 免疫疾患 c 自己免疫疾患 総論Ⅵ 検査 3 検体検査 ア 検体検査 d 免疫血清学検査 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 ク 口腔粘膜疾患の病態・診断・治療 e 全身性エリテマトーデス<SLE> g Behçet病 3 主として機能に関連する疾患の病態・診断・治療 ア 唾液腺疾患の病態 e Sjögren症候群 4 主として全身に関連する疾患の病態・診断・治療 エ 口腔症状を呈するアレルギー性疾患 b アレルギー性紫斑病 d 移植片対宿主病<GVHD> b 関節リウマチ</p>	*卯田 昭夫

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2022/06/09 (木) 2時限 10:40～12:10	内科系9 膠原病・アレルギー疾患	c 全身性エリテマトーデス<SLE> 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-4 感染と免疫 C-4-2) 免疫 ⑤アレルギー性疾患の種類、発症機序及び病態を説明できる。 ⑥免疫不全症・自己免疫疾患の種類、発症機序及び病態を説明できる。	* 卯田 昭夫
2022/06/16 (木) 2時限 10:40～12:10	内科系10 脳・神経・筋疾患	【授業の一般目標】 脳神経の解剖について理解する。 運動・知覚の神経伝導路について理解する。 認知機能とその障害について理解する。 脳、神経、筋疾患について理解する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 主な脳血管疾患について説明できる。 3. 主な運動ニューロン疾患について説明できる。 4. 主な筋肉疾患について説明できる。 5. 認知障害をきたす主な疾患について説明できる。 6. 主な脱髄疾患について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 脳神経の解剖について説明できる。 運動・知覚の神経伝導路について説明できる。 認知機能とその障害について説明できる。 脳、神経、筋疾患について理解する。 事前学修項目：生理、解剖、病理を確認すること。 事前学修時間：25分 事後学修項目：授業配布資料を再読。 事後学修時間：15分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 302教室 【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 8 主要な症候 ウ 全身的疾患に関連する口腔・顎顔面領域の症候 j 脳血管・神経・筋疾患に伴う症候 (摂食嚥下障害など) 【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 9 診察の基本 エ 全身の診察 b 意識状態、精神状態、認知機能 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢 1 細胞・組織・器官の構造と機能 キ 神経系 c 運動機能 d 自律機能 総論Ⅳ 主要症候 1 全身の症候 ク 神経系、感覚器系 総論Ⅴ 診察 6 全身疾患を有する者への対応 ア 留意すべき疾患 f 精神・行動の障害 g 神経・運動器疾患 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 4 主として全身に関連する疾患の病態・診断・治療 ス 全身管理に留意すべき疾患・状態 f 精神・心身医学的疾患 g 神経・運動器疾患 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (5) 神経系 ④脳と脊髄の構造と機能 (運動機能、感覚機能、高次神経機能及び自律機能)を説明できる。 ⑤脳血管の構造と分布及び機能的特徴を説明できる。 ⑥反射、半自動運動、随意運動の発現と調節の機序を説明できる。	* 山口 秀紀
2022/06/23 (木) 2時限 10:40～12:10	内科系11 内科診断学1	【授業の一般目標】 循環動態、意識障害、発熱、咳嗽、胸痛、血圧異常について理解する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 症候から考えられる疾患の診断過程を説明できる。 3. 症候に関連する検査データを踏まえて鑑別診断ができる。 【準備学修項目と準備学修時間】 循環動態、意識障害、発熱、咳嗽、胸痛、血圧異常について説明できる。 事前学修項目：生理、解剖、病理を確認すること。 事前学修時間：25分	* 山口 秀紀

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2022/06/23 (木) 2時限 10:40~12:10	内科系1 1 内科診断学1	<p>事後学修項目：授業配布資料を再読。 事後学修時間：15分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 8 主要な症候 ア 全身の症候 a 発熱、全身倦怠感、体重減少・増加、ショック、意識障害、脱水、浮腫、けいれん、めまい、黄疸、呼吸困難、チアノーゼ、頭痛、動悸、息切れ、胸痛、睡眠障害、嘔吐、下痢</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 必修の基本的事項 9 診察の基本 エ 全身の診察 a 全身の外観（体型、栄養、姿勢、歩行、発声） b 意識状態、精神状態、認知機能 歯科医学総論 総論Ⅳ 主要症候 1 全身の症候 ア 一般的症候 ウ 呼吸器・循環器系 エ 消化器系 オ 運動・骨格系、造血器系、免疫系 カ 泌尿器・生殖器系 ク 神経系、感覚器系 ケ 内分泌系(代謝、栄養を含む) 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 4 主として全身に関連する疾患の病態・診断・治療 ソ 歯科における全身的偶発症とその対応 a 血管迷走神経反射</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (4) 血液・リンパと循環器系 ②血液循環（肺循環、体循環及び胎児循環）の経路と主要な動静脈の名称を説明できる。 ③血管の構造と血圧調節機能を説明できる。 C-3-4) - (5) 神経系 ③交感神経系と副交感神経系の構造と機能を説明できる。 ④脳と脊髄の構造と機能（運動機能、感覚機能、高次神経機能及び自律機能）を説明できる。 ⑤脳血管の構造と分布及び機能的特徴を説明できる。 C-3-4) - (8) 呼吸器系 ①気道系の構造と機能を説明できる。 ②肺の構造・機能と呼吸運動を説明できる。 C-5 病因と病態 C-5-4) 循環障害 ④梗塞の種類、形態的特徴、転帰及び関連疾患を説明できる。 ⑤浮腫の原因と転帰を説明できる。 ⑥ショックの成因と種類を説明できる。</p>	*山口 秀紀
2022/06/30 (木) 2時限 10:40~12:10	内科系1 2 内科診断学2	<p>【授業の一般目標】 悪心、嘔吐、腹痛、下痢、急性腹症について理解する。 出血傾向、貧血について理解する。 浮腫、血尿、タンパク尿について理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 症候から考えられる疾患の診断過程を説明できる。 3. 症候に関連する検査を踏まえて鑑別診断ができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 悪心、嘔吐、腹痛、下痢、急性腹症について説明できる。 出血傾向、貧血について説明できる。 浮腫、血尿、タンパク尿について説明できる。 事前学修項目：生理、解剖、病理を確認すること。 事前学修時間：25分 事後学修項目：授業配布資料を再読。 事後学修時間：15分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 8 主要な症候 ア 全身の症候</p>	*山口 秀紀

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2022/06/30 (木) 2時限 10:40～12:10	内科系1 2 内科診断学2	<p>a 発熱、全身倦怠感、体重減少・増加、ショック、意識障害、脱水、浮腫、けいれん、めまい、黄疸、呼吸困難、チアノーゼ、頭痛、動悸、息切れ、胸痛、睡眠障害、嘔吐、下痢</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 必修の基本的事項 1 0 検査・臨床判断の基本 エ 検体検査の種類 a 一般臨床検査 b 血液学検査 歯科医学総論 総論Ⅳ 主要症候 1 全身の症候 ア 一般的症候 エ 消化器系 総論Ⅴ 診察 6 全身疾患を有する者への対応 ア 留意すべき疾患 c 消化器疾患 d 血液・造血器疾患 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 オ 軟組織に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患 k 白血病 l 悪性リンパ腫 r 貧血を伴う舌炎</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (7) 消化器系 ①消化管の基本構造、消化機能及び調節機構を説明できる。 ②肝臓の構造と機能及び胆汁と胆道系を説明できる。 C-3-4) - (10) 泌尿器系と体液・電解質調節 ①腎臓、尿管、膀胱及び尿道の構造と機能を説明できる。 ②体液の量と組成及び浸透圧の調節機構を説明できる。 C-3-4) - (4) 血液・リンパと循環器系 ④血液の構成要素と役割を説明できる。 ⑤リンパ管とリンパ系組織・器官の構造と機能を説明できる。 ⑥造血器官と造血機構を説明できる。 ⑦止血、血液凝固及び線溶の機序を説明できる。 C-5 病因と病態 C-5-4) 循環障害 ②出血の原因、種類及び転帰を説明できる。</p>	*山口 秀紀
2022/07/07 (木) 2時限 10:40～12:10	内科系1 3 内科診断学3	<p>【授業の一般目標】 各部関節痛、腰痛について理解する。 運動麻痺、認知症について理解する。 睡眠障害、うつ状態について理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 症候から考えられる疾患の診断過程を説明できる。 3. 症候に関連する検査を踏まえて鑑別診断ができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 各部関節痛、腰痛について説明できる。 運動麻痺、認知症について説明できる。 睡眠障害、うつ状態について説明できる。 事前学修項目：生理、解剖、病理を確認すること。 事前学修時間：25分 事後学修項目：授業配布資料を再読。 事後学修時間：15分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 8 主要な症候 ア 全身の症候 a 発熱、全身倦怠感、体重減少・増加、ショック、意識障害、脱水、浮腫、けいれん、めまい、黄疸、呼吸困難、チアノーゼ、頭痛、動悸、息切れ、胸痛、睡眠障害、嘔吐、下痢</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢 1 細胞・組織・器官の構造と機能 キ 神経系 c 運動機能 d 自律機能 e 高次神経機能 総論Ⅳ 主要症候 1 全身の症候 ク 神経系、感覚器系 総論Ⅴ 診察 6 全身疾患を有する者への対応</p>	*山口 秀紀

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2022/07/07 (木) 2時限 10:40～12:10	内科系13 内科診断学3	ア 留意すべき疾患 f 精神・行動の障害 g 神経・運動器疾患 総論Ⅶ 治療 1 治療の基礎 エ 全身管理に留意すべき疾患・対象 g 精神系 h 神経系 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 4 主として全身に関連する疾患の病態・診断・治療 シ 口腔・顎顔面領域に関連して現れる精神・心身医学的病態 b 不安障害 g 神経・運動器疾患 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (2) 支持組織と骨格系 ①人体の基本的な骨格系と骨の結合様式を説明できる。 ②結合(支持)組織の分類と構成する細胞と細胞間質を説明できる。	*山口 秀紀
2022/07/14 (木) 2時限 10:40～12:10	内科系14 生体機能検査(胸部X線写真、心電図)	【授業の一般目標】 胸部の解剖から胸部X線画像について理解する。 心臓の電気生理から心電図について理解する。 【行動目標(SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 胸部X線画像、心電図について重要な所見を説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 胸部の解剖から胸部X線画像について説明できる。 心臓の電気生理から心電図について説明できる。 事前学修項目: 生理、解剖、病理を確認すること。 事前学修時間: 25分 事後学修項目: 授業配布資料を再読。 事後学修時間: 15分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし 【学修方略(LS)】 講義 【場所(教室/実習室)】 302教室 【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 5 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系(骨格系(関節を含む)、筋系、呼吸器系、循環器系(脈管系)、消化器系(歯および唾液腺を含む)、造血管系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系) 【国家試験出題基準(副)】 歯科医学総論 総論Ⅵ 検査 4 生体機能検査 ア 臓器機能検査 a 呼吸機能検査 b 心機能検査 2 画像検査 コ 画像の鑑別診断 a 正常画像と主要疾患画像 b 全身疾患の画像所見 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (4) 血液・リンパと循環器系 ①心臓の構造、発生、機能及び心電図波形を説明できる。 ②血液循環(肺循環、体循環及び胎児循環)の経路と主要な動静脈の名称を説明できる。 C-3-4) - (8) 呼吸器系 ①気道系の構造と機能を説明できる。 ②肺の構造・機能と呼吸運動を説明できる。	*山口 秀紀
2022/07/21 (木) 2時限 10:40～12:10	内科系15 中毒・環境要因疾患	【授業の一般目標】 環境要因による人体の変化について理解する。 中毒による人体の変化について理解する。 【行動目標(SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 熱中症、低体温症について説明できる。 3. さまざまな中毒による症状と対応を説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 環境要因による人体の変化について説明できる。 中毒による人体の変化について説明できる。 事前学修項目: 生理、解剖、病理を確認すること。 事前学修時間: 25分 事後学修項目: 授業配布資料を再読。	*山口 秀紀

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2022/07/21 (木) 2時限 10:40~12:10	内科系 1 5 中毒・環境要因疾患	事後学修時間：15分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし 【学修方略（LS）】 講義 【場所（教室/実習室）】 302教室 【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態 1 病因、病態 コ 中毒、放射線障害 a 中毒の発生要因・病態生理 【国家試験出題基準（副）】 必修の基本的事項 9 診察の基本 エ 全身の診察 c バイタルサイン（呼吸、脈拍、血圧、体温） 歯科医学総論 総論Ⅰ 保健・医療と健康増進 9 環境保健 ア 環境保健対策 a 環境要因と健康 b 地球環境の変化・健康影響 総論Ⅶ 治療 1 治療の基礎 エ 全身管理に留意すべき疾患・対象 m その他 【コアカリキュラム】	*山口 秀紀
2022/08/25 (木) 2時限 10:40~12:10	内科系 1 6 平常試験 解説講義	【授業の一般目標】 客観問題を中心に出题する。 【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 多肢選択問題に解答する。 【準備学修項目と準備学修時間】 平常試験 ・事前学修項目：これまでの講義内容を理解する。 ・事前学修時間：約2時間 ・事後学修項目：試験で出題された内容を理解する。 ・事後学修時間：約30分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし 【学修方略（LS）】 その他 【場所（教室/実習室）】 302教室	*山口 秀紀 *石橋 肇 *卯田 昭夫 *下坂 典立 *鈴木 正敏 *中村 真実

隣接医学系

年次	学期	学修ユニット責任者
4年次	前学期	*小見山 道 (クラウンブリッジ補綴学)

学修ユニット 学修目標 (GIO)	単位数：2単位 歯科診療において全人的医療を遂行する上で必要な医学的知識を理解する。
担当教員	※小室 歳信、松本 裕子、*山本 泰、*梅澤 幸司、*小見山 道、*飯田 崇、松野 昌展
教科書	臨床のための法医学 第6版 小室歳信、澤口彰子ほか 朝倉書店 事例・判例から学ぶ歯科の法律 第1版 第9刷 小室歳信 医歯薬出版 精神・神経科学は教科書は使用しないが、レジメのプリントを配布する。
参考図書	カプラン臨床精神医学テキスト 第2版監訳 井上 令一・四宮 滋 メディカル・サイエンス・インターナショナル DSM - IV - TR 精神疾患の分類と診断の手引 新訂版 訳：高橋 三郎／大野 裕／染矢 俊幸 医学書院 ICD - 10 精神および行動の障害 臨床記述と診断ガイドライン監訳 融 道男／中根 允文／小見山 実 医学書院 現代臨床精神医学 大熊輝雄 金原出版
評価方法 (EV)	平常試験 (多肢選択問題) によって評価点 (100%) とする。
学生への メッセージ オフィスアワー	全人的医療という言葉が表すように、患者さんを取り巻く生理的、社会的、心理的、倫理的といった様々な要素を理解するためにも幅広い知識が要求されます。歯科医学を遂行する上で必ず役に立つときがきますので、集中して受講してください。 すべて、外部講師の方々です。礼節のある授業態度で臨んでください。疑問がある場合は授業時間内に積極的に質問してください。

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2022/04/12 (火) 4時限 14:50~16:20	隣接医学系1 1. 総論 1) 法医学とは 2) 検屍と解剖 3) 日本における異状死体の取り扱い方 2. 生と死 1) 出生と死の判定効果 2) 生と死の判定時期	<p>【授業の一般目標】 法医学の定義について説明できる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 「法律上問題となる」「医学的事項」「解決に寄与する」とは何を表しているかを説明できる。 3. 法医学の対象は、死体ばかりでないことを説明できる。 4. 検屍の対象となる異状死体とは何か、どのような場合に法医学解剖に付されるのかを説明できる。 5. 我国における死体の取り扱いについて説明できる。 6. ヒトはどの時点で生きる権利を認められるか、どの時点で死と判定されるのかを説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 法医学の定義について説明できる。 事前学修項目：教科書を参考。 事前学修時間：25分 事後学修項目：教科書再読。 事後学修時間：15分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅰ 保健・医療と健康増進 3 歯科法医学 ア 死因の究明 a 死体解剖と死因究明制度</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態 3 個体の死 ア 概念 イ 判定</p> <p>【コアカリキュラム】</p>	小室 歳信
2022/04/19 (火) 4時限 14:50~16:20	隣接医学系2 3. 死体現象 1) 定義 2) 早期死体現象 3) 晩期死体現象 4) 特殊死体現象 5) 死後経過時間	<p>【授業の一般目標】 死体の時間的变化を理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 死体に現れてくる様々な変化・現象を説明できる。 3. 早期死体現象と晩期死体現象の発症機序と法医学的意義について説明できる。</p>	小室 歳信

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2022/04/19 (火) 4時限 14:50~16:20	推定 4. 異常環境による 障害と死 1) 高温	4. ミイラ化や死蝻化現象について説明できる。 5. 死因や死体の環境などを考慮して死後経過時間を推定できることを説明できる。 6. 異常温度による障害・死亡の発生機序を説明できる。 7. 火傷死と焼死との死体所見の差異について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 死体の時間的変化を説明できる。 事前学修項目：教科書を参考。 事前学修時間：25分 事後学修項目：教科書再読。 事後学修時間：15分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし 【学修方略（LS）】 講義 【場所（教室/実習室）】 302教室 【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅰ 保健・医療と健康増進 3 歯科法医学 ア 死因の究明 b 死後変化 【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅰ 保健・医療と健康増進 9 環境保健 ア 環境保健対策 a 環境要因と健康 b 地球環境の変化・健康影響 【コアカリキュラム】	小室 歳信
2022/04/26 (火) 4時限 14:50~16:20	隣接医学系3 5. 損傷 1) 定義と用語、 法医学的意義 2) 法医学的問題 点 3) 分類 4) 被虐待児症候 群 5) 損傷による死 因 6) 生活反応	【授業の一般目標】 創傷とその法医学的意義について理解する。 【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 人体に生じた創傷を観察し、その検査の法医学的意義について説明できる。 3. 創傷の数、部位、性状および程度から、自・他殺、事故死の区別ができることを説明できる。 4. 乳幼児や小児が繰り返し虐待を受け、それによって生じた外傷の特徴的性状を説明できる。 5. 損傷による死因について検討し説明できる。 6. 生体でなければ現れない所見（生活反応）の意義、死後損傷と識別ができることを説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 創傷とその法医学的意義について説明できる。 事前学修項目：教科書を参考。 事前学修時間：25分 事後学修項目：教科書再読。 事後学修時間：15分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし 【学修方略（LS）】 講義 【場所（教室/実習室）】 302教室 【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅰ 保健・医療と健康増進 3 歯科法医学 ア 死因の究明 a 死体解剖と死因究明制度 【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅰ 保健・医療と健康増進 2 ライフステージ別にみた保健・福祉の制度 ア 母子保健、母子歯科保健と児童福祉 g 児童虐待への対応 【コアカリキュラム】	小室 歳信
2022/05/10 (火) 4時限 14:50~16:20	隣接医学系4 6. 中毒1ー 1) 中毒、毒物の 定義 2) 薬毒物の分類 3) 一酸化炭素・ 青酸 4) 農薬 5) 犯罪の成立要 件 6) 薬物依存症	【授業の一般目標】 農薬中毒・一酸化炭素中毒について理解する。 【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 薬毒物の定義および薬理学的分類について説明できる。 3. 一酸化炭素、青酸および農薬などの性質、中毒作用機序および死体所見などを説明できる。 4. 「行為者の責任能力」について正当防衛、緊急避難、心神耗弱、心神喪失と関連づけて説明できる。 5. 耽溺性のある麻薬類、覚醒剤等の代謝と排泄を説明できる。	小室 歳信

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2022/05/10 (火) 4時限 14:50～16:20	隣接医学系 4 6. 中毒 1 - 1) 中毒, 毒物の定義 2) 薬毒物の分類 3) 一酸化炭素・青酸 4) 農薬 5) 犯罪の成立要件 6) 薬物依存症	6. アルコール依存症の定義と症状, ならびに代謝と排泄について説明できる。 7. 薬物依存症者の犯法行為と法律の関係について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 農薬中毒・一酸化炭素中毒について説明できる。 事前学修項目: 教科書を参考。 事前学修時間: 25分 事後学修項目: 教科書再読。 事後学修時間: 15分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 302 教室 【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態 1 病因、病態 コ 中毒、放射線障害 a 中毒の発生要因・病態生理 【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 1 治療の基礎 エ 全身管理に留意すべき疾患・対象 m その他 【コアカリキュラム】	小室 歳信
2022/05/17 (火) 4時限 14:50～16:20	隣接医学系 5 7. 窒息 1) 窒息死の定義と分類 2) 窒息死の経過 3) 窒息死の特徴	【授業の一般目標】 窒息死について理解する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 窒息の種々のタイプ (縊死, 絞死, 扼死など), 作用機序および窒息死体の剖検所見を説明できる。 3. 窒息死体の特徴を知り, 自・他殺あるいは事故死の区別を説明できる 【準備学修項目と準備学修時間】 窒息死について説明できる。 事前学修項目: 教科書を参考。 事前学修時間: 25分 事後学修項目: 教科書再読。 事後学修時間: 15分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 302 教室 【国家試験出題基準 (主)】 その他 該当なし 【国家試験出題基準 (副)】 その他 該当なし 【コアカリキュラム】	小室 歳信
2022/05/24 (火) 4時限 14:50～16:20	隣接医学系 6 8. 個人識別 1) 必要性・重要性 2) 生体・死体の個人識別 3) 災害事故死の身元確認 9. 歯科法医学 1) 法医学的意義 2) 歯から性別・	【授業の一般目標】 個人識別について理解する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 個人識別の定義について説明できる。 3. 白骨死体の頭蓋骨の形態観察から性別判定法と年齢推定法について説明できる。 4. 大量災害死事故における身元不明死体の個人識別の効果的な手順について説明できる。 5. 歯・歯科所見の証拠物件としての価値を知り, それらの所見が身元確認に有効なのかを説明できる。 6. 歯の形態 (大きさ, 形) からの性別判定法を説明できる。 7. 歯の発生的変化, 生理学的変化, 病理学的変化, 物理化学的变化からの年齢推定法を説明できる。 8. 歯に関する損傷のうち, 歯痕からの個人識別について説明できる。 9. 歯科所見から職業, 出身地, 教養や生活程度などを推定できる場合があることを説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 個人識別について説明できる。 事前学修項目: 教科書を参考。 事前学修時間: 25分 事後学修項目: 教科書再読。 事後学修時間: 15分	小室 歳信

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2022/05/24 (火) 4時限 14:50～16:20	隣接医学系 6 8. 個人識別 1) 必要性・重要性 2) 生体・死体の個人識別 3) 災害事故死の身元確認 9. 歯科法医学 1) 法医学的意義 2) 歯から性別・	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論 I 保健・医療と健康増進 3 歯科法医学 ア 死因の究明 c 個人識別、身元確認</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論 II 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢 9 口腔・顎顔面の発生・成長・発育 エ 頭部の成長・発育 b 歯列、咬合</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-2) 組織、器官及び個体の発生と成長 ①人体の正常な個体発生と器官発生を説明できる。 ③人体の形態的な成長と機能的な発達を説明できる。</p>	小室 歳信
2022/05/31 (火) 4時限 14:50～16:20	隣接医学系 7 10. 医療行為 1) 医療行為の定義 2) 医行為と歯科医行為	<p>【授業の一般目標】 医療行為について理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 業としての医療行為とはなにかを説明できる。 3. 正当な医療行為の条件 (治療, 医学的・社会的正当性, 承諾) について説明できる。 4. 生体腎移植, 正常分娩および美容整形手術などは医療行為といえるかについて説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 医療行為について説明できる。 事前学修項目: 教科書を参考。 事前学修時間: 25分 事後学修項目: 教科書再読。 事後学修時間: 15分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 2 社会と歯科医療 イ 保健・医療・福祉・介護の制度と医療経済 b 医療法</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 その他 該当なし</p> <p>【コアカリキュラム】</p>	小室 歳信
2022/06/07 (火) 4時限 14:50～16:20	隣接医学系 8 11. 医療事故と法医学 1) ヒヤリ・ハット 2) リスクマネジメント	<p>【授業の一般目標】 医療事故について理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 遺体は変死体と見なされ司法解剖に付されることを説明できる。 3. 事故には至らないヒヤリ・ハット事例を収集・分析し, 再発防止策を説明できる。 4. 医療事故からリスクマネジメント構築を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 医療事故について説明できる。 事前学修項目: 教科書を参考。 事前学修時間: 25分 事後学修項目: 教科書再読。 事後学修時間: 15分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】</p>	小室 歳信

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2022/06/07 (火) 4時限 14:50～16:20	隣接医学系 8 11. 医療事故と法 医学 1) ヒヤリ・ハッ ト 2) リスクマネジ メント	必修の基本的事項 2 社会と歯科医療 オ 医療事故の防止 a 医療事故と医療過誤 【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 2 社会と歯科医療 オ 医療事故の防止 b 医療事故の発生要因 c 患者の安全管理 (誤飲、誤嚥、誤薬、出血、外傷、感染、被曝、目の保護) d 医療者の安全管理 e 医療危機管理 (リスクマネージメント) f ヒヤリハット、アクシデント、インシデント、医療事故報告書、インシ デントレポート g 医療安全対策 (医薬品・医療機器の安全管理) h 医療事故調査制度 キ 医療裁判 a 医事紛争、賠償 b 医療訴訟 (刑事裁判、民事裁判) 【コアカリキュラム】	小室 歳信
2022/06/14 (火) 4時限 14:50～16:20	隣接医学系 9 眼・ 耳の解剖	【授業の一般目標】 特殊感覚の感覚受容器である眼球と耳の構造と機能を説明できる。 【行動目標 (SBOs)】 1. 眼球の構造と機能を説明できる。 2. 視覚と眼球の自律機能について説明できる。 3. 眼球の運動について説明できる。 4. 外耳の構造を説明できる。 5. 中耳の構造を説明できる。 6. 内耳の構造と機能を説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 視細胞、半規管、蝸牛について説明できる。 事前学修項目：教科書を参考。 事前学修時間：25分 事後学修項目：教科書再読。 事後学修時間：15分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし 黒板の板書と必要に応じて資料の配付、マルチメディアの併用 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 302教室 【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 5 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系 (骨格系 (関節を含む)、筋系、呼吸器系、循環器系 (脈管系)、 消化器系 (歯および唾液腺を含む)、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、 内分泌系、感覚器系) 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (6) 感覚器系と感覚 ①特殊感覚器の構造と特殊感覚を説明できる。	松野 昌展
2022/06/21 (火) 4時限 14:50～16:20	隣接医学系 10 顎顔面領域の手 術に必要な解剖	【授業の一般目標】 顎顔面領域の手術を安全に行うために、臨床解剖ならびに手術解剖を理解する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 口腔内手術の術式と注意すべき臓器について説明できる。 3. 唾液腺疾患の術式と注意すべき臓器について説明できる。 4. 頸部手術の術式と注意すべき臓器について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：解剖学の教科書で頭頸部領域の解剖を復習しておくこと。 事前学修時間：1時間 事後学修項目：講義で学修した術式を口腔顎顔面外科学の教科書で復習する。 事後学修時間：1時間 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 302教室 【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 カ 腫瘍・腫瘍類似疾患に対する診断・治療	*山本 泰

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2022/06/21 (火) 4時限 14:50～16:20	隣接医学系10 顎顔面領域の手術に必要な解剖	a 外科療法 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-5) 小手術 ②小手術の合併症(偶発症)を説明できる。 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能 ①頭頸部の体表と内臓の区分と特徴を説明できる。 ②頭蓋骨の構成と構造を説明できる。 ④頭頸部の脈管系を説明できる。 E-2-2) 口腔領域の構造と機能 ①口腔の区分と構成要素を説明できる。 ⑦上顎洞の構造、機能及び口腔との関係を説明できる。	*山本 泰
2022/06/28 (火) 4時限 14:50～16:20	隣接医学系11 顎顔面領域の手術に必要な解剖	【授業の一般目標】 顎顔面領域の手術を安全に行うために、臨床解剖ならびに手術解剖を理解する。 【行動目標(SBOs)】 1.臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2.口腔内手術の術式と注意すべき臓器について説明できる。 3.唾液腺疾患の術式と注意すべき臓器について説明できる。 4.頭部手術の術式と注意すべき臓器について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目:解剖学の教科書で頭頸部領域の解剖を復習しておくこと。 事前学修時間:1時間 事後学修項目:講義で学修した術式を口腔顎顔面外科学の教科書で復習する。 事後学修時間:1時間 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし 【学修方略(LS)】 講義 【場所(教室/実習室)】 302教室 【国家試験出題基準(主)】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 カ 腫瘍・腫瘍類似疾患に対する診断・治療 a 外科療法 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-5) 小手術 ②小手術の合併症(偶発症)を説明できる。 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能 ①頭頸部の体表と内臓の区分と特徴を説明できる。 ②頭蓋骨の構成と構造を説明できる。 ④頭頸部の脈管系を説明できる。 E-2-2) 口腔領域の構造と機能 ①口腔の区分と構成要素を説明できる。 ⑦上顎洞の構造、機能及び口腔との関係を説明できる。	*山本 泰
2022/07/05 (火) 4時限 14:50～16:20	隣接医学系12 ライフステージにおける薬物適用上の注意	【授業の一般目標】 歯科診療において安全な薬物療法を行うために、ライフステージにおける薬物適用上の注意に関する知識を修得する。 【行動目標(SBOs)】 1.妊婦に対する薬物適用上の注意を列挙し、その特徴を説明できる。 2.授乳婦に対する薬物適用上の注意を列挙し、その特徴を説明できる。 3.小児に対する薬物適用上の注意を列挙し、その特徴を説明できる。 4.高齢者に対する薬物適用上の注意を列挙し、その特徴を説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目:「薬物適用上の注意」について教科書で確認する。 事前学修時間:30分 事後学修項目:授業時配布プリントの内容確認と整理。 事後学修時間:60分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング:無 学修媒体:マルチメディア、プリント配布 【学修方略(LS)】 講義 【場所(教室/実習室)】 302教室 【国家試験出題基準(主)】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 8 薬物療法 イ 用法と用量 e 薬物適用上の注意 【国家試験出題基準(副)】 歯科医学総論	松本 裕子

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2022/07/05 (火) 4時限 14:50～16:20	隣接医学系1 2 ライフステージにおける薬物適用上の注意	総論Ⅶ 治療 8 薬物療法 イ 用法と用量 d 薬物の副作用・有害事象の種類・機序・対策 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-6 生体と薬物 C-6-4) 薬物の副作用と有害作用 ①薬物の一般的副作用と有害事象を説明できる。	松本 裕子
2022/07/12 (火) 4時限 14:50～16:20	隣接医学系1 3 全身的疾患を有する患者に対する薬物適用上の注意	【授業の一般目標】 歯科診療において安全な薬物療法を行うために、全身的疾患を有する患者に対する薬物適用上の注意に関する知識を修得する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 止血薬、抗血栓薬を列挙し、作用機序と相互作用を説明できる。 2. 気管支喘息治療薬を列挙し、作用機序と相互作用を説明できる。 3. 循環器系の薬物を列挙し、作用機序と相互作用を説明できる。 4. 歯科診療における薬物相互作用を説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：「血液に作用する薬物」「呼吸器系に作用する薬物」「循環器系に作用する薬物」について教科書で確認する。 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布プリントの内容確認と整理。 事後学修時間：60分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無 学修媒体：マルチメディア、プリント配布 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 302教室 【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 8 薬物療法 イ 用法と用量 e 薬物適用の注意 【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 8 薬物療法 イ 用法と用量 d 薬物の副作用・有害事象の種類・機序・対策 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-6 生体と薬物 C-6-4) 薬物の副作用と有害作用 ①薬物の一般的副作用と有害事象を説明できる。	松本 裕子
2022/07/19 (火) 4時限 14:50～16:20	隣接医学系1 4 歯科と関連が深い神経疾患	【授業の一般目標】 歯科臨床において遭遇する頻度の高い神経疾患について理解する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. てんかんについて説明できる。 3. Parkinson病について説明できる。 4. 脊髄小脳変性症について説明できる。 5. 筋萎縮性側索硬化症について説明できる。 6. 脳血管障害について説明できる。 7. 脊髄損傷について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：歯科領域で遭遇する神経疾患について参考図書にて確認しておく。 事前学修時間：30分 事後学修項目：教科書再読。 事後学修時間：15分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 302教室 【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅴ 診察 6 全身疾患を有する者への対応 ア 留意すべき疾患 g 神経・運動器疾患 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学	*梅澤 幸司

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2022/07/19 (火) 4時限 14:50～16:20	隣接医学系14 歯科と関連が深い 神経疾患	E-5 高齢者、障害者、精神・心身医学的疾患 E-5-1) 高齢者の歯科治療 ①高齢者の生理的、心理的及び行動的特徴を説明できる。 ⑤高齢者の歯科治療時の全身管理を説明できる。 E-5-2) 障害者の歯科治療 ①障害者の身体的、精神的及び心理的特徴を説明できる。 ②障害者の行動調整(行動管理)と歯科治療に必要な注意点を説明できる。	*梅澤 幸司
2022/07/26 (火) 4時限 14:50～16:20	隣接医学系15 歯科と関係が深い 精神疾患	【授業の一般目標】 歯科臨床において遭遇する頻度の高い精神疾患について理解する。 【行動目標(SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 統合失調症について説明できる。 3. うつ病と双極性障害について説明できる。 4. 不安症と強迫症について説明できる。 5. 心身症について説明できる。 6. 認知症について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：歯科領域で遭遇する精神疾患について参考図書にて確認しておく。 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業配布資料を再読。 事後学修時間：15分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし 【学修方略(LS)】 講義 【場所(教室/実習室)】 302教室 【国家試験出題基準(主)】 歯科医学総論 総論V 診察 6 全身疾患を有する者への対応 ア 留意すべき疾患 f 精神・行動の障害 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-5 高齢者、障害者、精神・心身医学的疾患 E-5-2) 障害者の歯科治療 ①障害者の身体的、精神的及び心理的特徴を説明できる。 E-5-3) 精神・心身医学的疾患 ②口腔顔面領域に関連して現れる精神・心身医学的病態を説明できる。	*梅澤 幸司
2022/08/23 (火) 4時限 14:50～16:20	隣接医学系16 平常試験 解説講義	【授業の一般目標】 客観問題を中心に出题する。 【行動目標(SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 多肢選択問題に解答する。 【準備学修項目と準備学修時間】 平常試験 ・事前学修項目：これまでの講義内容を理解する。 ・事前学修時間：約2時間 ・事後学修項目：試験で出題された内容を理解する。 ・事後学修時間：約30分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし 【学修方略(LS)】 その他 【場所(教室/実習室)】 302教室	*小見山 道 *飯田 崇